

前計画の概要と実績

(1)計画に基づく施策と事業の進捗

①名取市自転車利用環境整備計画における各施策の実施状況等

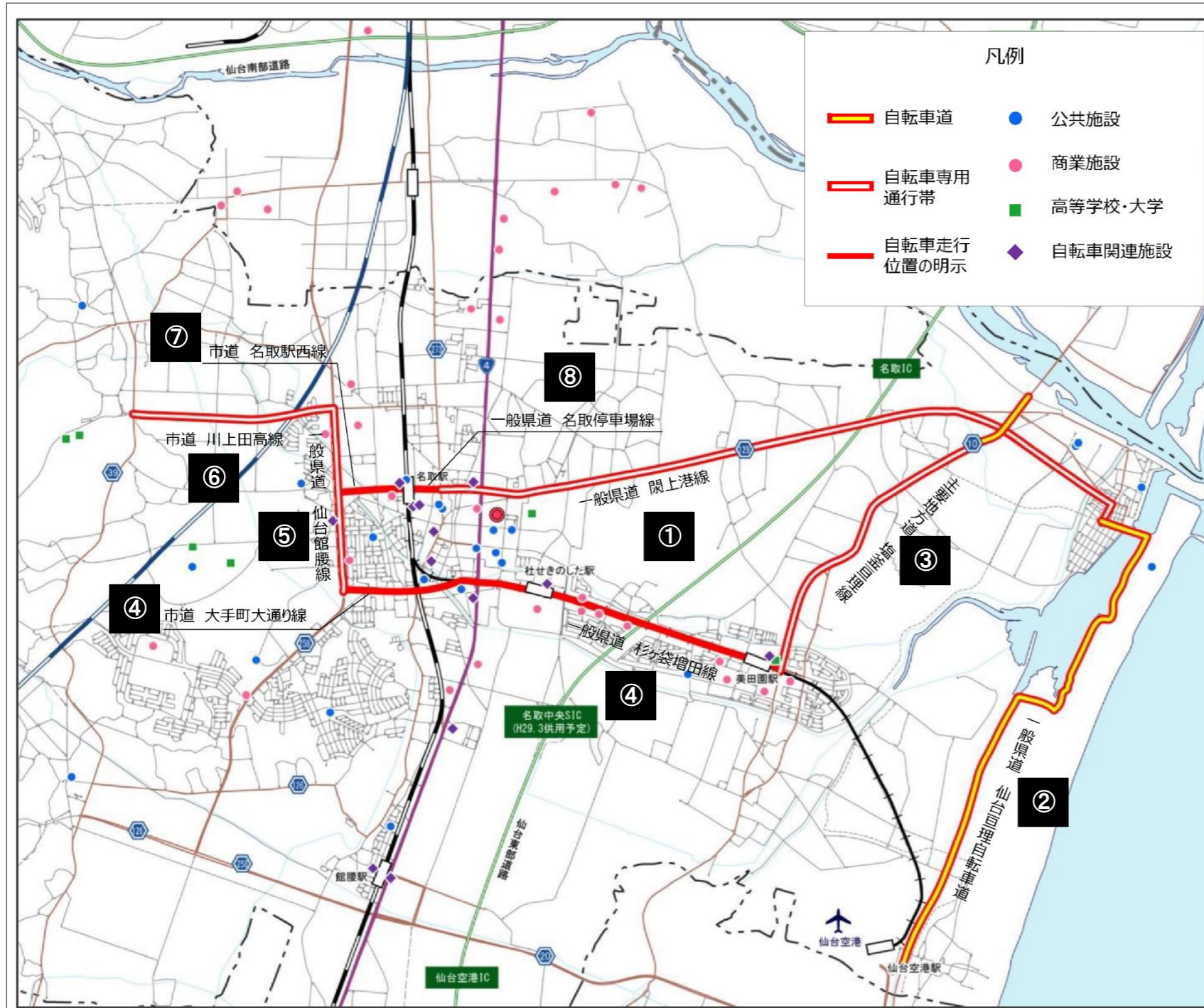
事業区分	ア 施策	イ 施策の概要	ウ 実施事業	エ 実績等	オ 次計画の引継ぎ（案）
1 安全な自転車利用のための意識づくりに関する施策					
ソフト	1) 看板設置等による安全対策	市内における自転車事故発生箇所、自転車ルール違反（違法駐輪含む）多発箇所における看板（自転車は左側通行遵守、違法駐輪禁止等）の設置による注意喚起の実施 中心市街地に見られる幅員が狭く、自転車専用の通行空間整備が困難な路線（特に旧4号など）について、注意喚起の看板を設置するなどの安全対策の実施	要望等に応じ随時看板・ポール等を設置	①ゆりが丘三丁目地内注意喚起看板2基設置 ②駐輪禁止看板（名取駅西口7箇所、名取駅東口3、美田園駅1、館腰駅西口1、館腰駅東口2） ①名取駅西口（手倉田地内）ポール設置による降車通行喚起 ②田高沢目線 矢羽根路面標示 ③相互台線 自転車歩行者分離路面標示	要望・苦情などを受け実施しているものであり、実施方法を調整しつつ継続
	2) 各種交通イベント開催等による自転車利用ルール・マナーの普及・啓発	市内の小・中学校による交通安全教室や街頭指導による啓発活動 市内の自治会、老人クラブ等を通じた高齢者への啓発や民間自転車等駐車場、自転車店等との連携・協力によるルール・マナーの普及啓発活動	①警察官または交通指導隊による小学校交通安全教室 ②自転車通学者に対する街頭指導 ①町内会の要請を受け交通指導隊による交通安全教室開催（関連） ②サイクルスポーツセンター自主事業による普及啓発	令和4年度実績（例年実施） ①小・中・義務教育学校全校で実施 ②「春・秋の交通安全運動」年2回及び毎月15日（自転車安全利用の日）に実施 ①新型コロナウイルスの影響から、令和2年度以降未実施（令和元年度2団体80人対象に実施有） ②令和4年度乗れない子の自転車教室年9回開催、48人参加（5歳から小学6年生対象）	充実を図りつつ継続 民間との連携について未実施であり、当該取組の検討を含め継続
	3) サイクルマップの作成	市外来訪者はもちろん市民の自転車周遊の支援および安全な自転車利用を周知するため自転車周遊マップを作成・配布	市内の公共・観光施設、文化財等を周遊するMAPを作成	「閑上りりんりんサイクリングコース」等4コースのマップを作成配布 ※宮城サイクルツーリズム推進協議会による「震災復興伝承ルート」やジャパネコトラック推進協議会による「みやぎ県南浜街道ロングライドルート」など広域のコースも紹介されている。	新たなルート選定等コースの充実を検討し継続
	4) 安全・快適な自転車通行空間の整備	復興推進に対応した自転車ネットワーク路線を設定し、安全で快適な自転車通行空間整備を実施	8路線設定（但し通行空間の整備は一部のみ済）	路線は設定したが、自転車通行空間の確保について一部未整備（別紙）	路線の拡充と通行空間の確保の手法を検討しつつ継続
2 復興による新たな生活圏に対応した自転車通行空間づくりに関する施策					
3 自転車の利用促進に向けた環境づくりに関する施策					
ソフト	5) サイクリングコースの設定	市外からの来訪者はもちろん市民がサイクリングを楽しむことができるコースの設定を行い、公表する。	①公共・観光施設、文化財等を周遊するMAPの作成関連 ②周遊スポットを巡る各種ポイントラリーの実施 ③サイクルスポーツセンターを宿泊先とした「サイクリング周遊ツアー」、「周遊モニターツアー」を開催	①4ルート設定（R4年度実績） ②3回実施 延べ3,077人参加 ③周遊ツアー8回実施73人参加、モニターツアー3回実施6人参加	コースの充実と利用の促進イベント等の開催と併せて継続
	6) 既存自転車店等を活用したサイクルステーション等の整備	既存の自転車店等をサイクルステーションと位置付けて、簡単なメンテナンスや休憩場所として利用可能な施設に位置づける。	公共施設における設置、飲食店等におけるサイクルラック設置	36箇所設置（公共施設19、民間施設17） ※仙台空港にサイクリングポート（H29.11設置（仙台空港株））	サイクルステーションの設置検討を含め継続
ハード	7) レンタサイクルの拡充	名取駅コミュニティプラザで実施中のレンタサイクル事業の拡充と、新たな拠点（仙台空港、サイクルスポーツセンター等）の設置を進め、市内の利用者に対応	①名取駅コミュニティプラザ（5台） ②サイクルスポーツセンターによる走路外貸出（R2年10月開始）	実績（台） ①R1：489、R2：66、R3：104 R4：369 ②R2：137、R3：452、R4：871	事業の拡充やシェアサイクルの導入検討を含め継続
	8) 自転車ネットワーク整備の拡大	本計画完了後は、整備された自転車ネットワークを骨格とした、新たな自転車ネットワークの拡大展開を検討	未実施（計画では令和9年度から実施の位置付け）		路線の拡充と通行空間の確保の手法を検討しつつ継続
	9) 自転車等駐車場の確保	自転車利用環境の向上に伴う、新たな自転車需要に対応した自転車等駐車場の確保を検討	未実施（計画では令和9年度から実施の位置付け）		現在設置されている駐輪場の収容能力に不足は無いが、需要調査等を行い設置箇所を増やすことを検討し継続

前計画の概要と実績

②自転車ネットワーク路線の整備進捗状況

「安全・快適な自転車通行空間の整備」に位置付けている8つの自転車ネットワーク路線について、整備進捗状況を以下のように整理した。

■名取市自転車利用環境整備基本計画における自転車ネットワーク



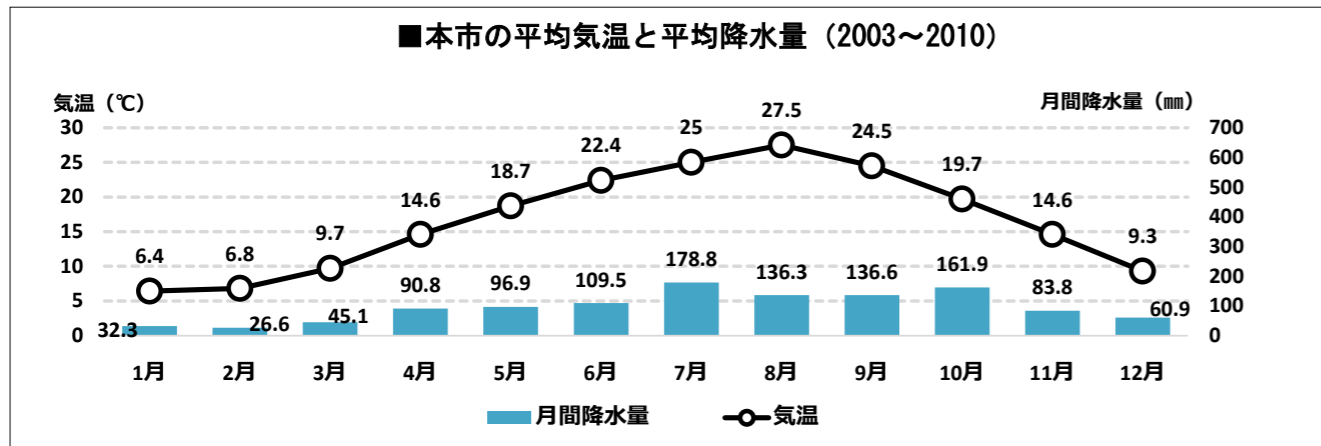
	路線名	延長 (m)		整備状況、今後の整備等
		計画	完了	
①	一般県道 関上港線(専用通行帯)	6,590	1,605	・未整備区間は道路拡幅を必要とするが整備予定なし
②	一般県道 仙台亙理自転車道(自転車道)	4,885	0	・ルートを変更して整備予定 (R6 完了見込み)
③	主要地方道 塩釜亙理線(自転車道)(専用通行帯)	3,430	600	・未整備区間は道路拡張を必要とするが、整備予定なし
④	一般県道 杉ヶ袋増田線(走行位置明示) 市道 大手町大通り線(走行位置明示)	3,573 399	3,573 399	・整備済
⑤	一般県道 仙台館腰線(専用通行帯)	1,580	0	・道路拡張が必要であるが、整備予定なし。
⑥	市道 川上田高線(専用通行帯)	2,550	0	・道路拡張が必要であるが、整備予定なし。
⑦	市道 名取駅西線(走行位置明示)	653	495	・R2 実施
⑧	一般県道 名取停車場線(走行位置明示)	224	224	・整備済

名取市自転車活用に関する現況

(2) 気候・地形的特性

① 気候

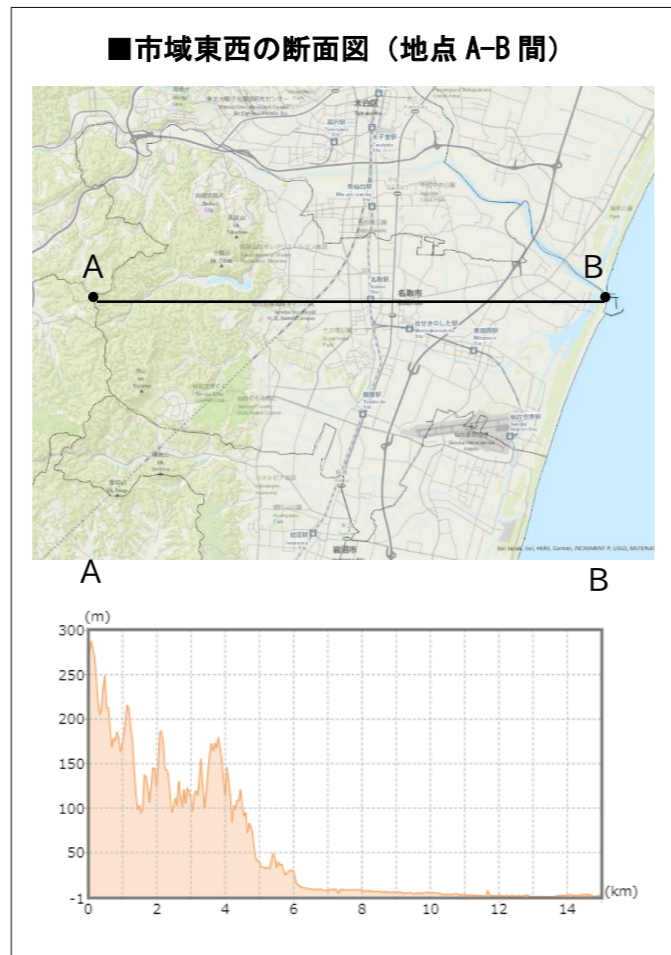
本市は、比較的高緯度に位置しており太平洋に面した海洋性気候のため、寒暖差は少なく、積雪についても、冬は奥羽山脈を越して吹く風が乾いているため、比較的少ない傾向にある。



出典：気象庁仙台航空測候所データ

② 地勢

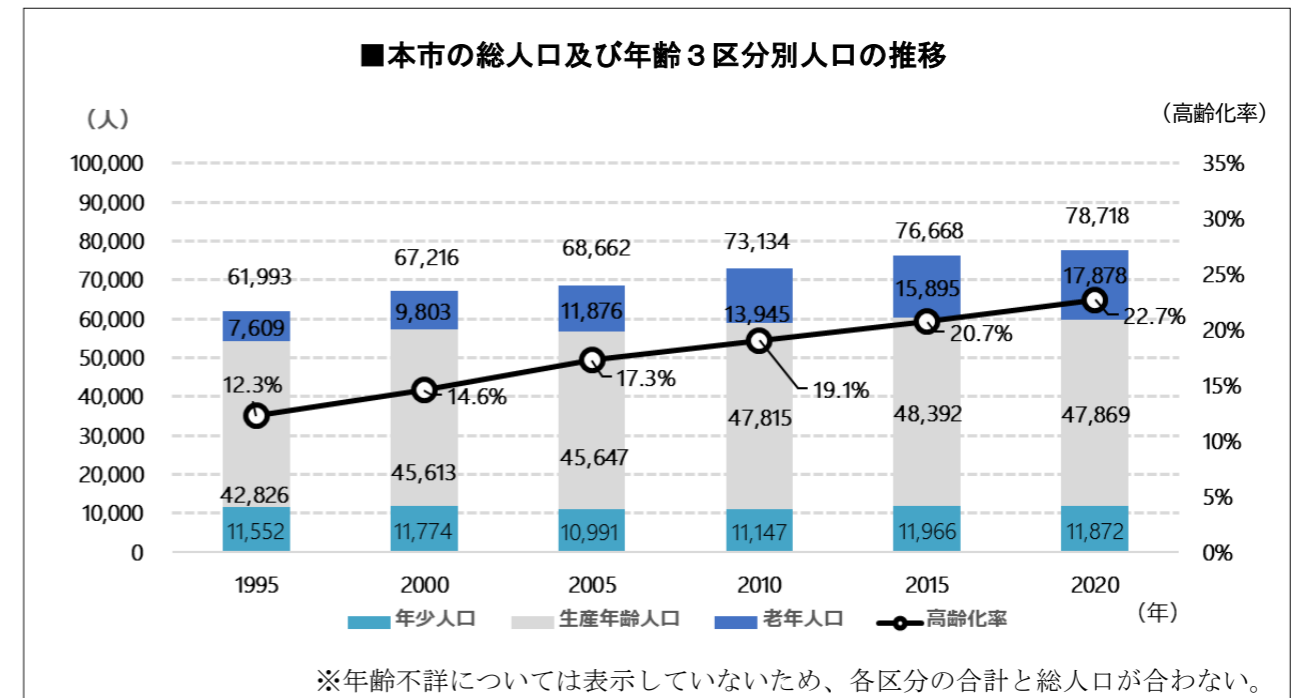
市の東側には平坦地が広がっており、日常的に自転車利用しやすい環境である。その一方で、西側の丘陵地は 300m の高低差がありアップダウンを利用した自転車走行による運動、レクリエーションに適した環境になっている。



(3) 人口特性

① 人口推移

- 近況の動向は、微増傾向にあるが令和 5 年 8 月末現在 79,729 人となり、8 万人到達に向け着実に伸びている(令和 4 年 8 月末 79,623 人から 106 人増)が、第六次長期総合計画で掲げる令和 6 年 82,200 人の推計人口に対しては鈍化している。
- 生産年齢人口と年少人口については、2015 年以降は減少傾向となっている。



出典：国勢調査

名取市自転車活用に関する現況

②就業人口

- 本市の産業の特長を就業人口から見ると、令和2年総数は東日本大震災前の平成22年の値を上回っており、増加傾向にあるが、第1次産業、第2次産業の就業人口は減少している。
- 就業人口が最も多い「卸売業、小売業」は人口数を減らしており、第2次産業において最も多い「製造業」も人口数が減少している。

■本市の就業人口の推移

		単位 (人)					
		平成22年	平成27年	令和2年	H27-R2 増減数	増減率	
総数 (産業大分類)		32,354	35,534	36,275	741	2.1%	
第1次	A 農業, 林業	1,398	1,209	1,095	△ 114	△ 9.4%	
	うち農業	1,392	1,203	1,083	△ 120	△ 10.0%	
	B 漁業	41	13	16	3	23.1%	
第2次	C 鉱業, 採石業, 砂利採取業	12	14	5	△ 9	△ 64.3%	
	D 建設業	2,960	3,729	3,659	△ 70	△ 1.9%	
	E 製造業	4,212	4,161	4,056	△ 105	△ 2.5%	
第3次	F 電気・ガス・熱供給・水道業	203	267	245	△ 22	△ 8.2%	
	G 情報通信業	802	888	879	△ 9	△ 1.0%	
	H 運輸業, 郵便業	2,655	2,657	2,815	158	5.9%	
	I 卸売業, 小売業	6,494	6,574	6,457	△ 117	△ 1.8%	
	J 金融業, 保険業	804	780	717	△ 63	△ 8.1%	
	K 不動産業, 物品賃貸業	645	852	812	△ 40	△ 4.7%	
	L 学術研究, 専門・技術サービス業	854	1,021	1,083	62	6.1%	
	M 宿泊業, 飲食サービス業	1,605	1,720	1,796	76	4.4%	
	N 生活関連サービス業, 娯楽業	1,120	1,083	1,114	31	2.9%	
	O 教育, 学習支援業	1,793	2,008	2,060	52	2.6%	
	P 医療, 福祉	3,113	3,875	4,415	540	13.9%	
	Q 複合サービス事業	267	336	287	△ 49	△ 14.6%	
	R サービス業 (他に分類されないもの)	2,178	2,284	2,504	220	9.6%	
	S 公務 (他に分類されるものを除く)	1,126	1,362	1,364	2	0.1%	
	T 分類不能の産業	72	701	896	195	27.8%	
	(再掲) 第1次産業		1,439	1,222	1,111	△ 111	△ 9.1%
	(再掲) 第2次産業		7,184	7,904	7,720	△ 184	△ 2.3%
(再掲) 第3次産業		23,659	25,707	26,548	841	3.3%	

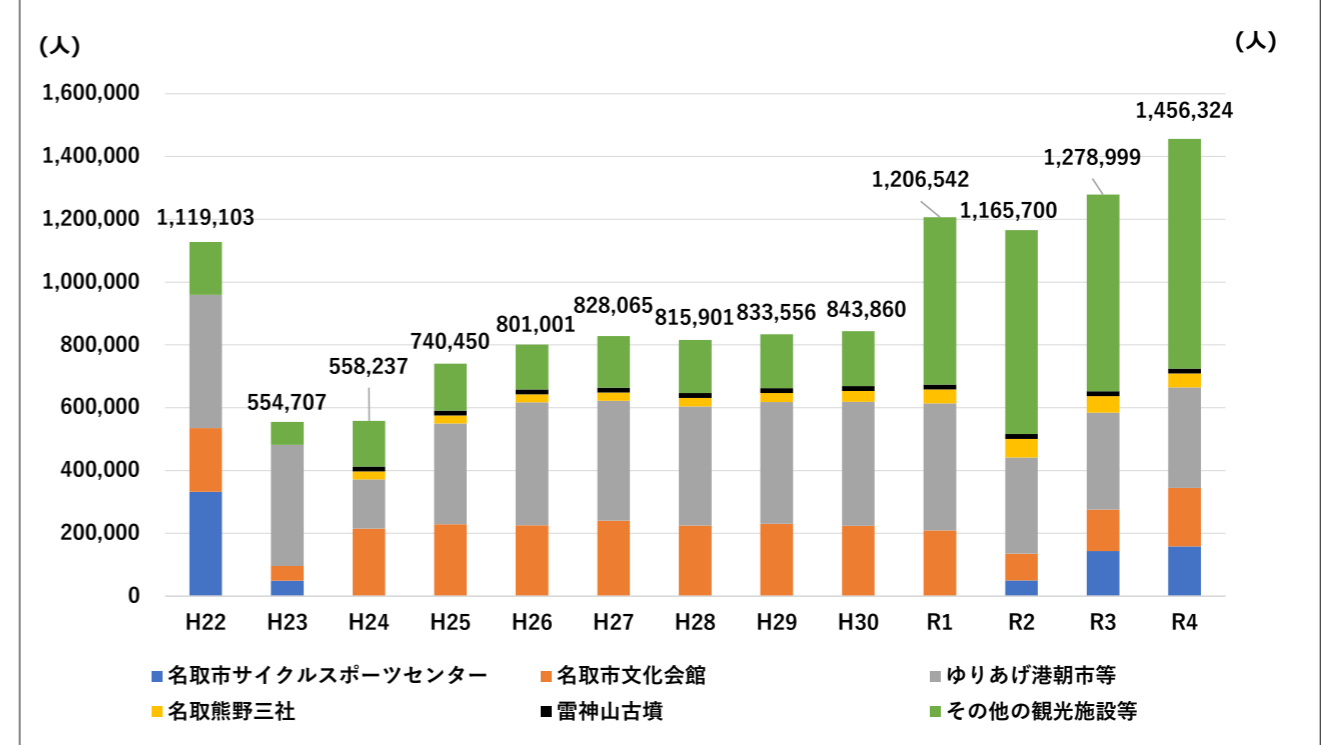
出典：国勢調査

(4)観光

①観光客入込数

- 観光客数は、東日本大震災があった平成23年以降は落ち込んでいたが、令和元年には震災前の水準に回復した。令和2年には新型コロナウイルス感染症による落ち込みがあるものの、その後上昇しており、今後アフターコロナによる上昇が期待される。
- 「ゆりあげ港朝市」、「名取市サイクルスポーツセンター」、「かわまちてらす閑上」など、被災後再建等により開設した沿岸部の施設が上位を占めている。また、1,000キロメートルに及ぶロングトレイルの情報発信施設「名取トレイルセンター」も設置され、市域を超えた回遊性も期待される。
- 一方、市の中心部には文化事業の拠点となる「名取市文化会館」が、中心近くには東北最大を誇る「雷神山古墳」、西部の高館地区には、東北の太平洋側における熊野信仰の拠点とされる名取熊野三山が存し、文化・歴史の主要な観光資源となっている。
- 観光客については、沿岸部の集客に依っている傾向にある。

■市全体及び主要観光施設等の観光客入込数の推移

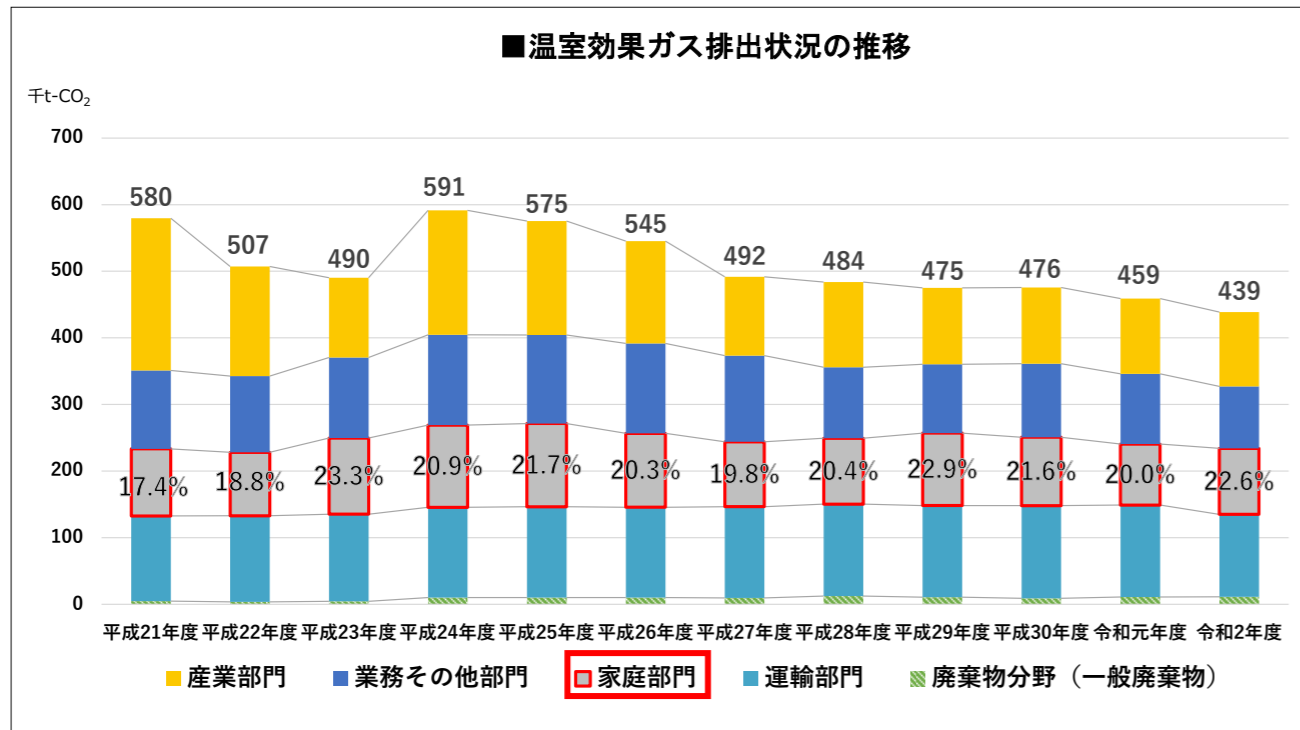


出典：名取市資料

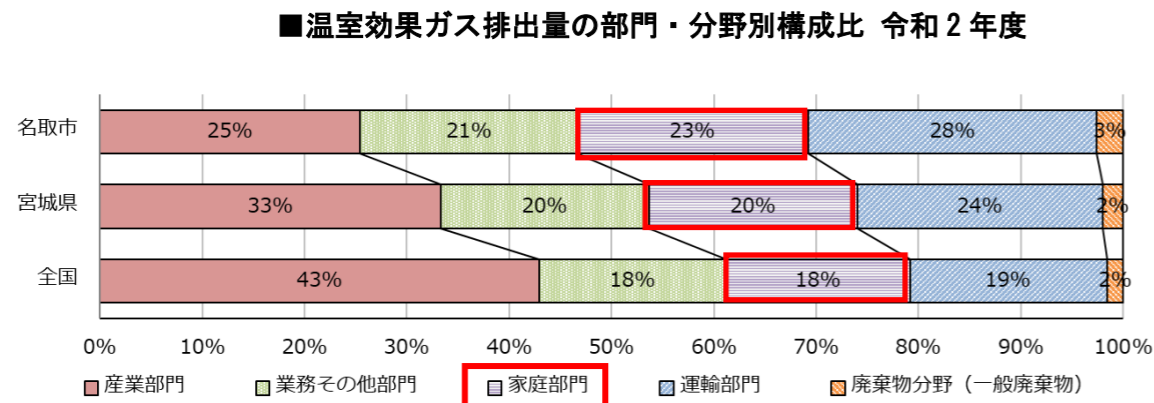
名取市自転車活用に関する現況

(5) 環境

- 本市の温室効果ガス排出量の推移を見ると、東日本大震災の影響を受けた平成 23 年度までは減少傾向にあったが、震災復興等に伴いその後増加し、平成 24 年度をピークに再び緩やかな減少傾向にある。
- 国及び県と比較すると、自動車利用を含む家庭部門について比較的高い割合にある。



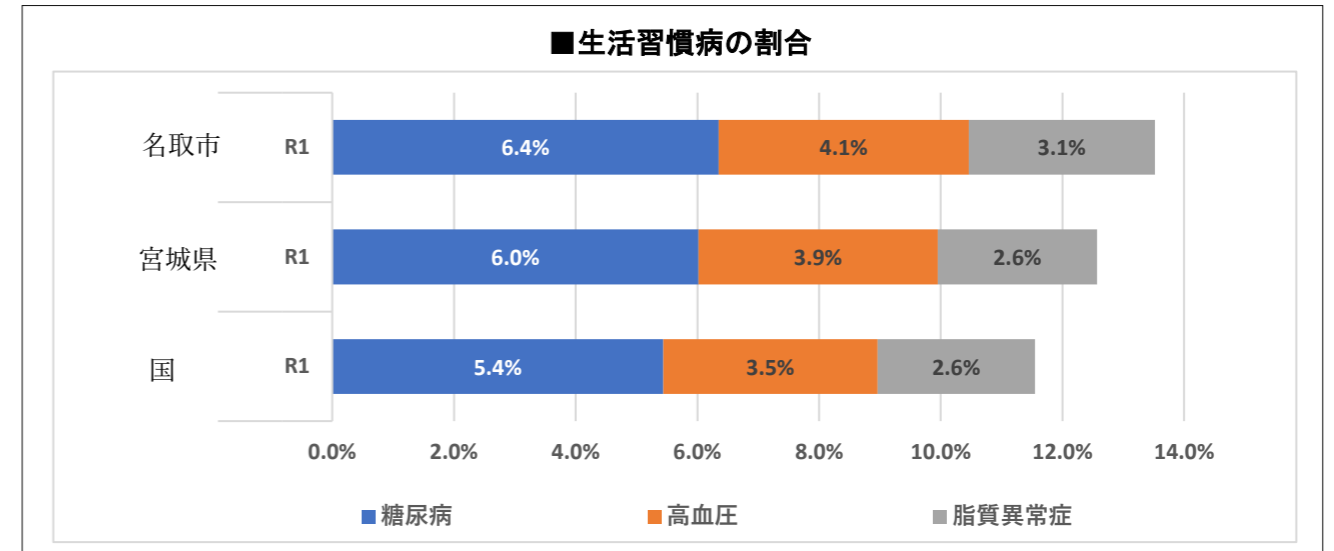
出典：環境省 自治体排出量カルテ



出典：環境省 自治体排出量カルテ

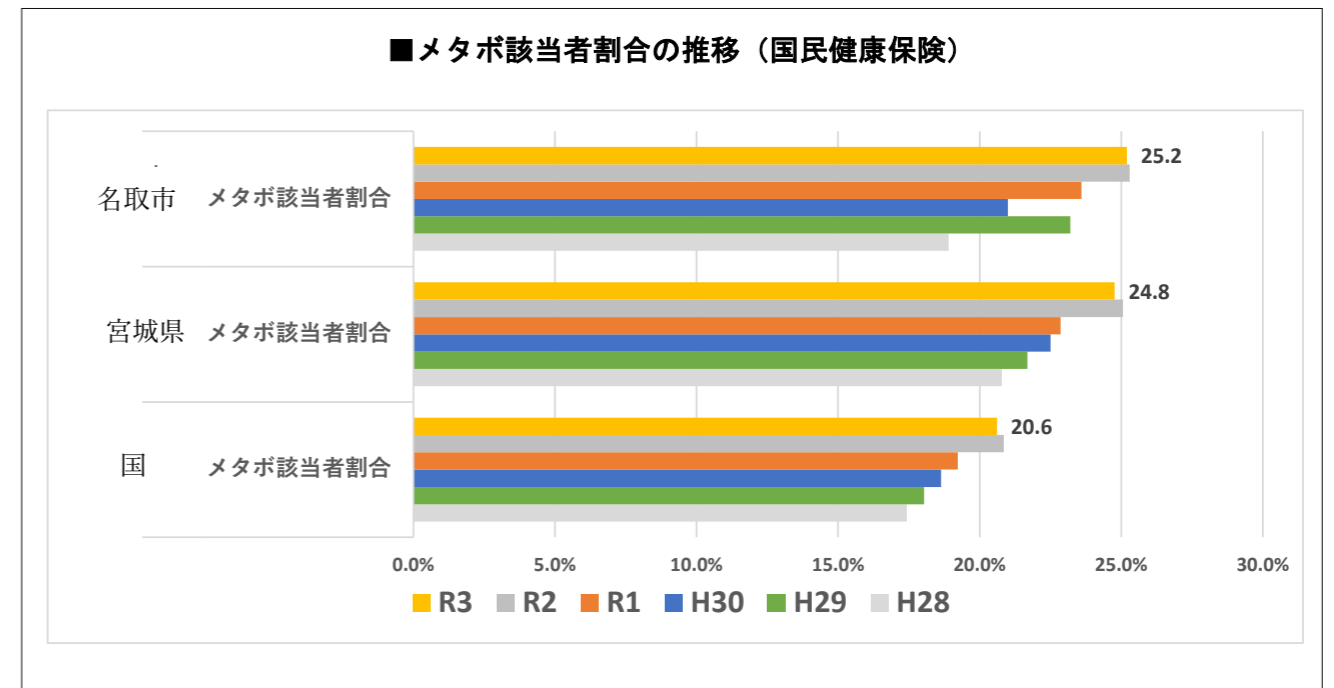
(6) 健康

- 生活習慣病に関連する糖尿病や高血圧などは国、県より高い割合となっている。



出典：名取市国民健康保険第2期保健事業実施計画（データヘルス計画）

- 「メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)」について、本市の該当者の割合は増加傾向にあり、国、県の割合を上回っている。



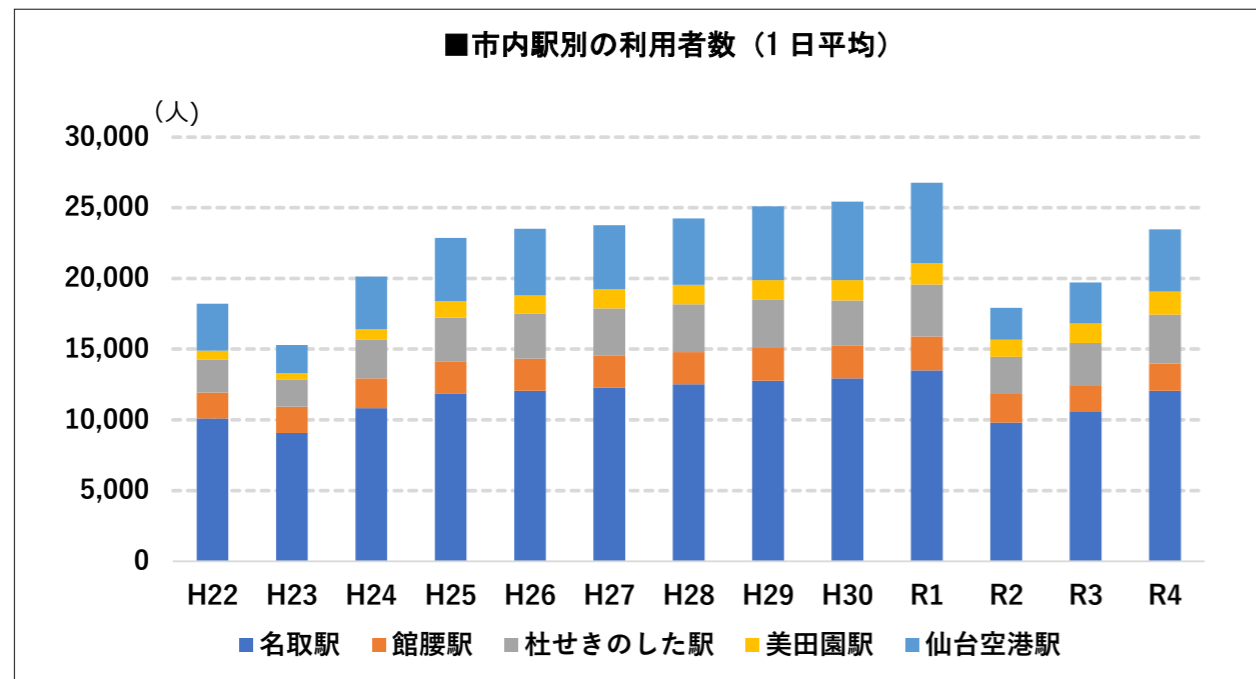
出典：特定健康診査・特定保健指導の実施状況に関するデータ(厚生労働省)

名取市自転車活用に関する現況

(7)公共交通

①鉄道

- 市内の5鉄道駅の1日平均利用者数は、令和元年度まではゆるやかに増加していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により減少に転じ、その後、令和3年から再び増加し感染症拡大前の水準に戻りつつある。



出典：JR 東日本 HP、仙台空港鉄道株式会社 HP

②駐輪場

- 市内5駅にある駐輪場の規模は、名取駅が1,000台以上収容可能と最大規模(1日約800台が利用)であり、その他の駅は約50~200台程度の収容可能台数となっている。市管理の有料駐輪場について、平成30年度に比し館腰駅が2割を超え減少している。

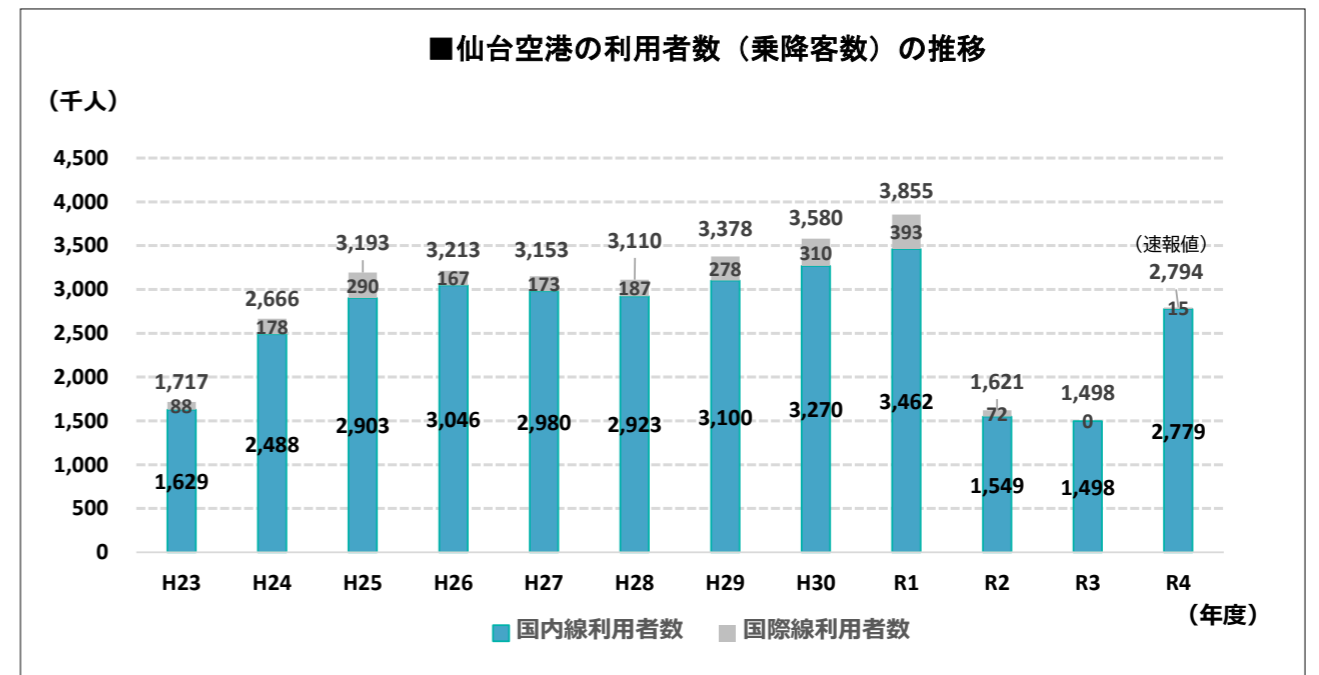
■自転車駐輪場利用率

	一日当たりの駐輪台数（台）		一日当たりの乗降客数（人）		自転車駐輪場利用率	
	館腰駅	名取駅	館腰駅	名取駅	館腰駅	名取駅西口
平成30年度	231	1,341	7,880	28,005	2.9%	4.8%
平成31年度	214	1,350	8,051	25,466	2.7%	5.3%
令和2年度	184	1,066	6,703	17,656	2.7%	6.0%
令和3年度	199	1,186	7,513	19,884	2.6%	6.0%
令和4年度	175	1,225	7,756	22,109	2.3%	5.5%
H30-R4増減	△24.2%	△8.7%	△1.6%	△21.1%	△0.68	0.75

出典：市資料

③航空

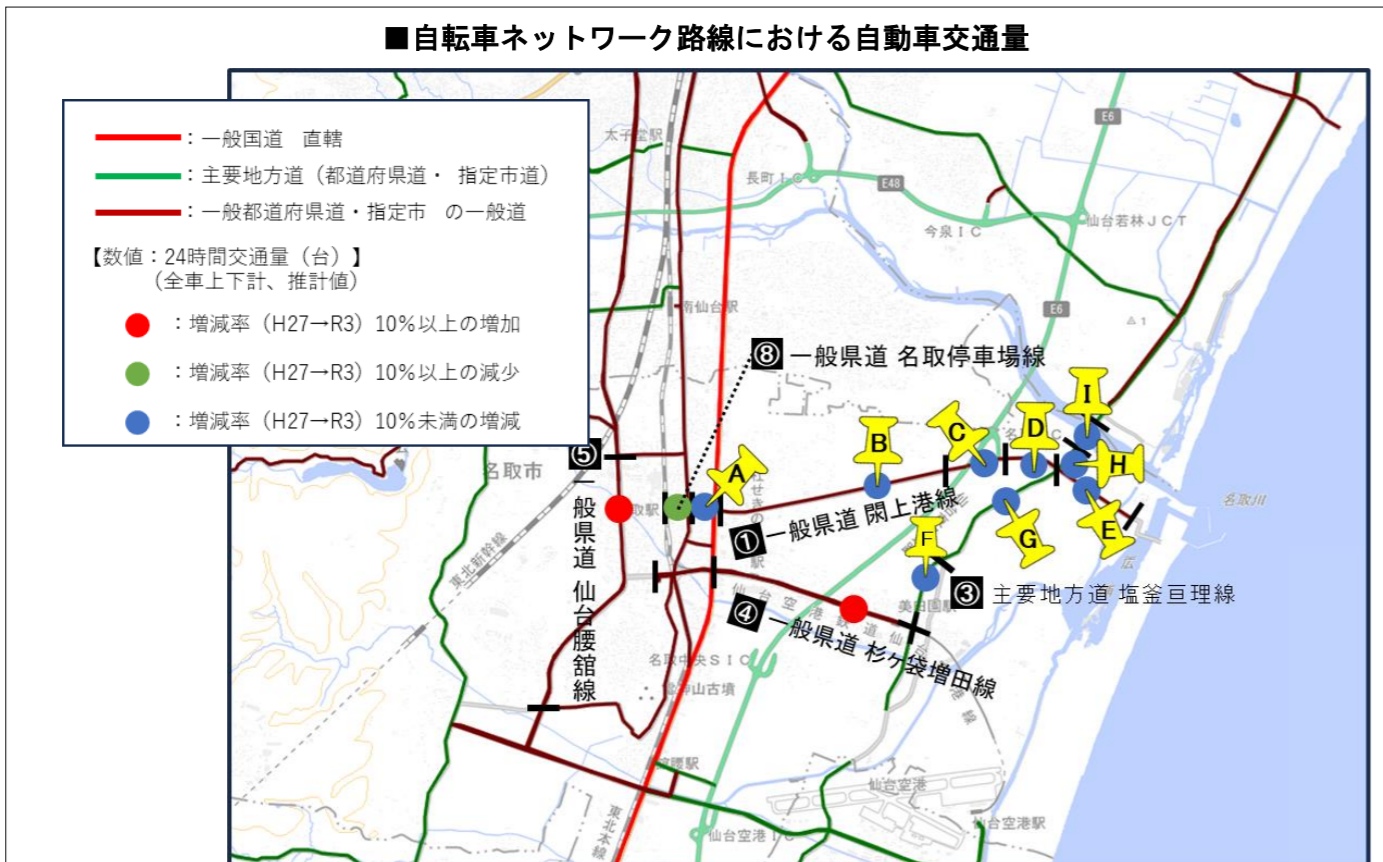
- 仙台空港の利用者数は、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度までは国内線、国際線ともに増加しており、令和3年度に運休となった国際線は、令和4年度から順次再開し、感染症以前の利用状況に戻りつつある。



出典：仙台国際空港株式会社

(8)交通センサス

現計画の自転車ネットワークと重複する幹線道路の自動車交通量の変化は以下のとおりであり、④一般県道杉ヶ袋増田線及び⑤一般県道仙台館腰線が10%を超える増となっており、その他の路線は10%以下の増及び減となっている。



※C～E及びF～Hについては、交通量（推計量）が同じであるため、まとめて記載している。

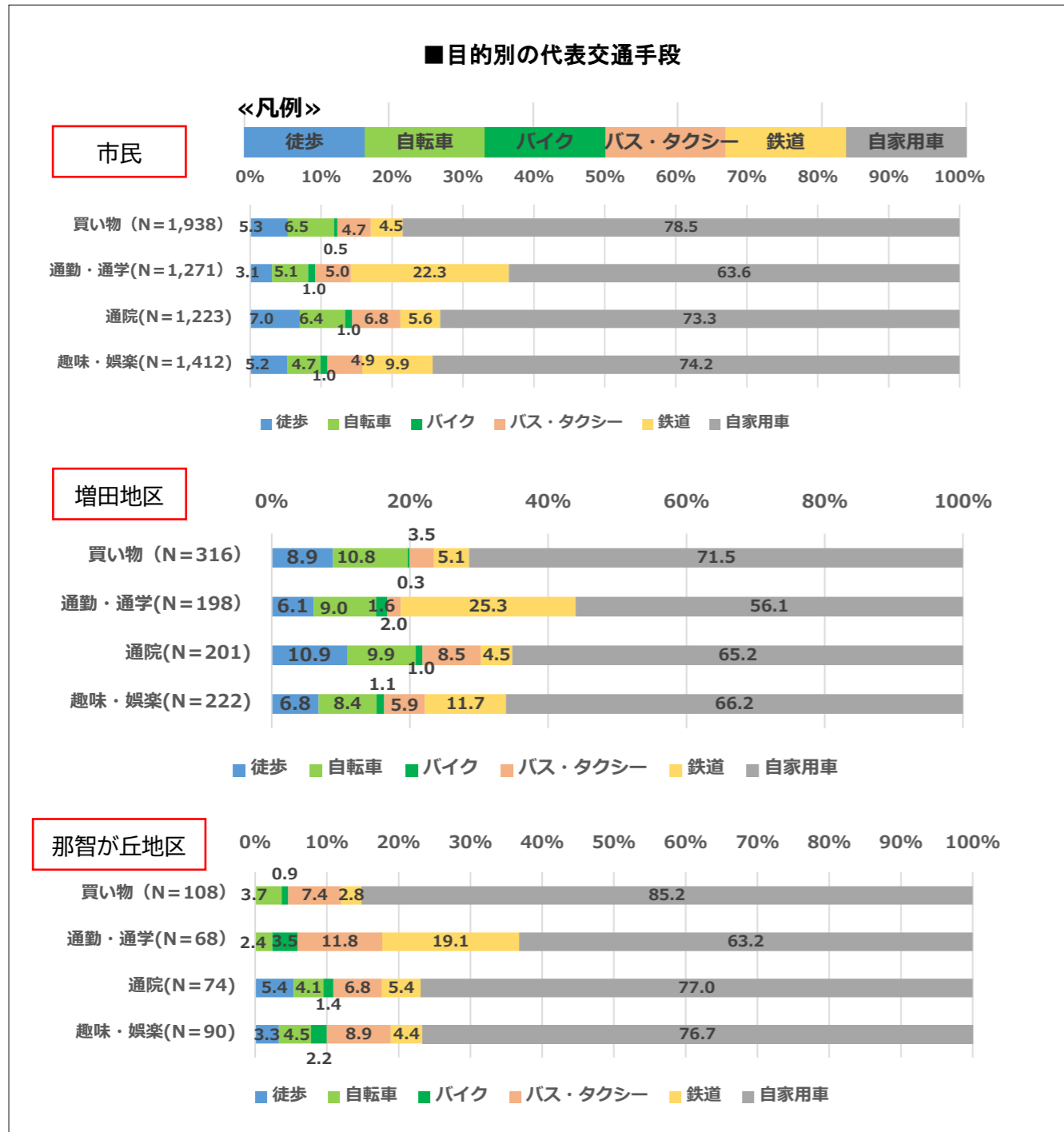
	路線名	対象地点 (地図内記載)	平成27年から 令和3年の増減率
①	一般県道 関上港線(専用通行帯)	A	106.9%
		B	107.0%
		C～E*	108.6%
②	一般県道 仙台亘理自転車道(自転車道)	調査地点無し	
③	主要地方道 塩釜亘理線(自転車道) (専用通行帯)	F～H*	95.2%
		I	109.3%
④	一般県道 杉ヶ袋増田線(走行位置明示) 市道 大手町大通り線(走行位置明示)	114.0%	
⑤	一般県道 仙台館腰線(専用通行帯)	113.9%	
⑥	市道 川上田高線(専用通行帯)	調査地点無し	
⑦	市道 名取駅西線(走行位置明示)	調査地点無し	
⑧	一般県道 名取停車場線(走行位置明示)	91.4%	

出典：交通センサス（H27、R3）

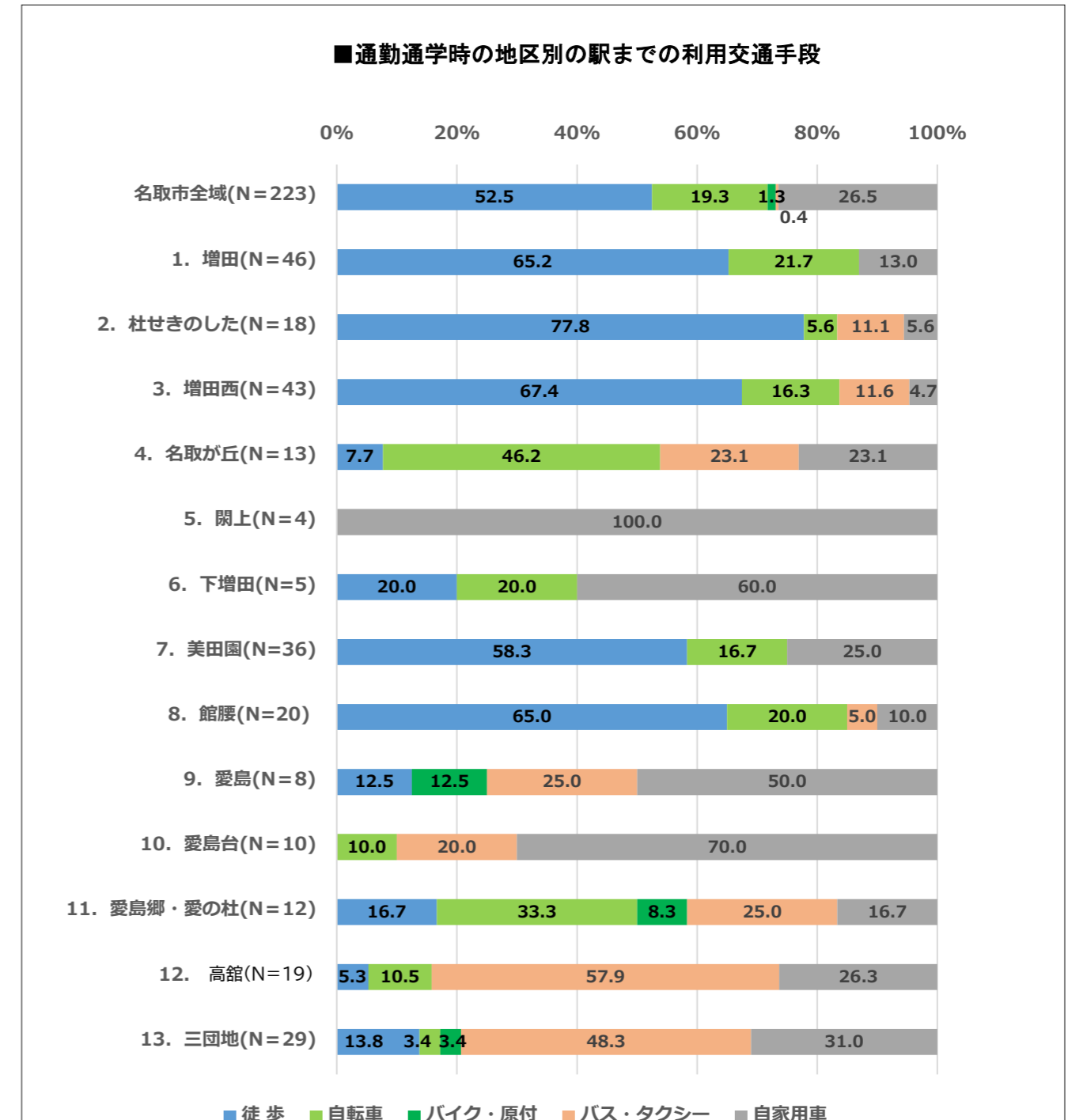
名取市自転車活用に関する現況

(9) アンケートから見える自転車の利用状況

- 市内の目的別移動手段として自家用車が多く、徒歩や自転車で移動する方は、少ない傾向にある。市全体で自転車はいずれの目的においても、約5~7%となっている。
- 地区ごとの傾向では、鉄道沿線で平坦な増田地区は、鉄道、徒歩や自転車の割合が高く、一方で、丘陵地である那智が丘地区は、地区内に買い物施設等も少ないことから、自家用車の割合が高くなっていると考えられる。



出典：名取市公共交通に関する市民アンケート調査（令和2年度）

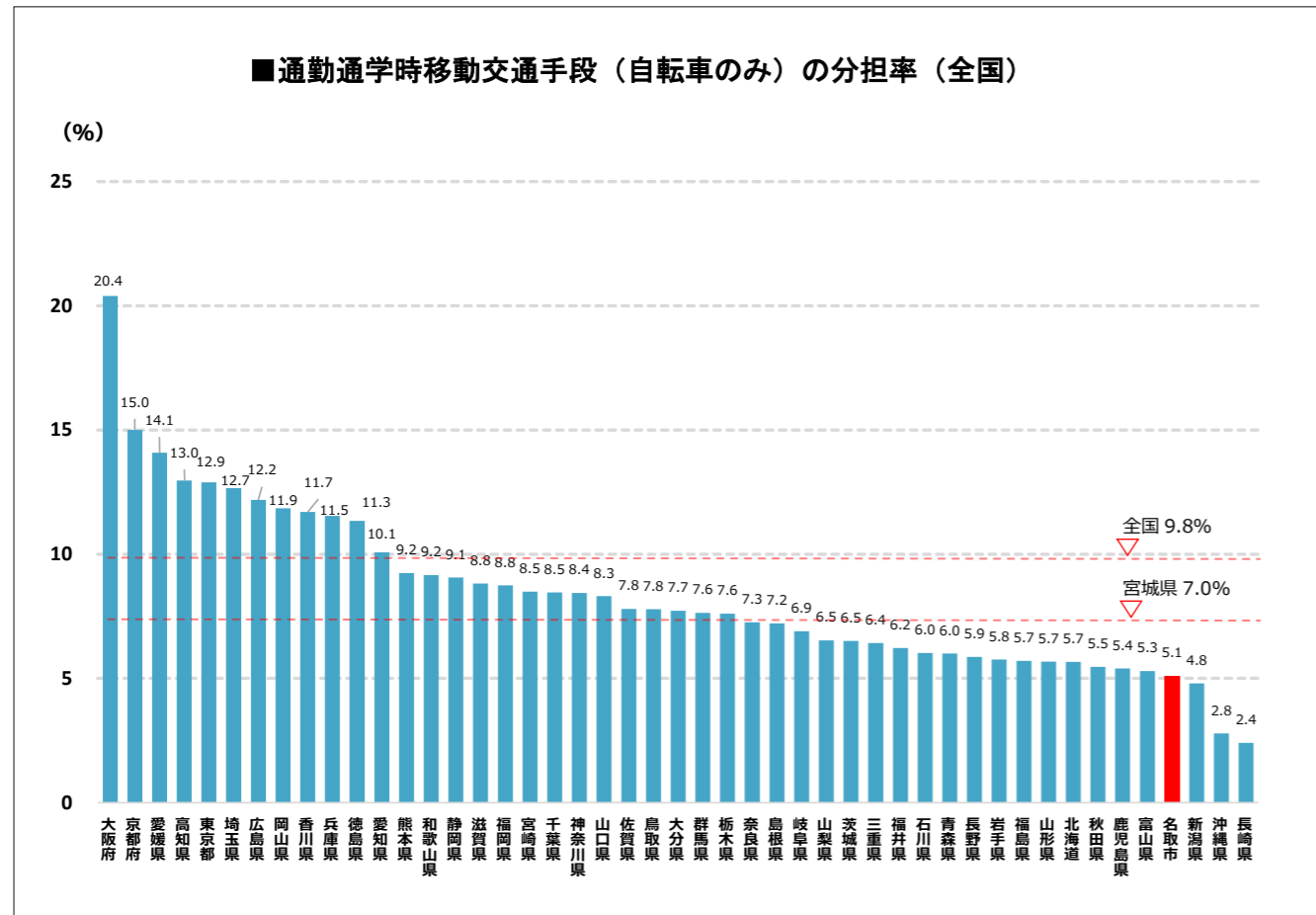


出典：名取市公共交通に関する市民アンケート調査（令和2年度）

名取市自転車活用に関する現況

・交通手段

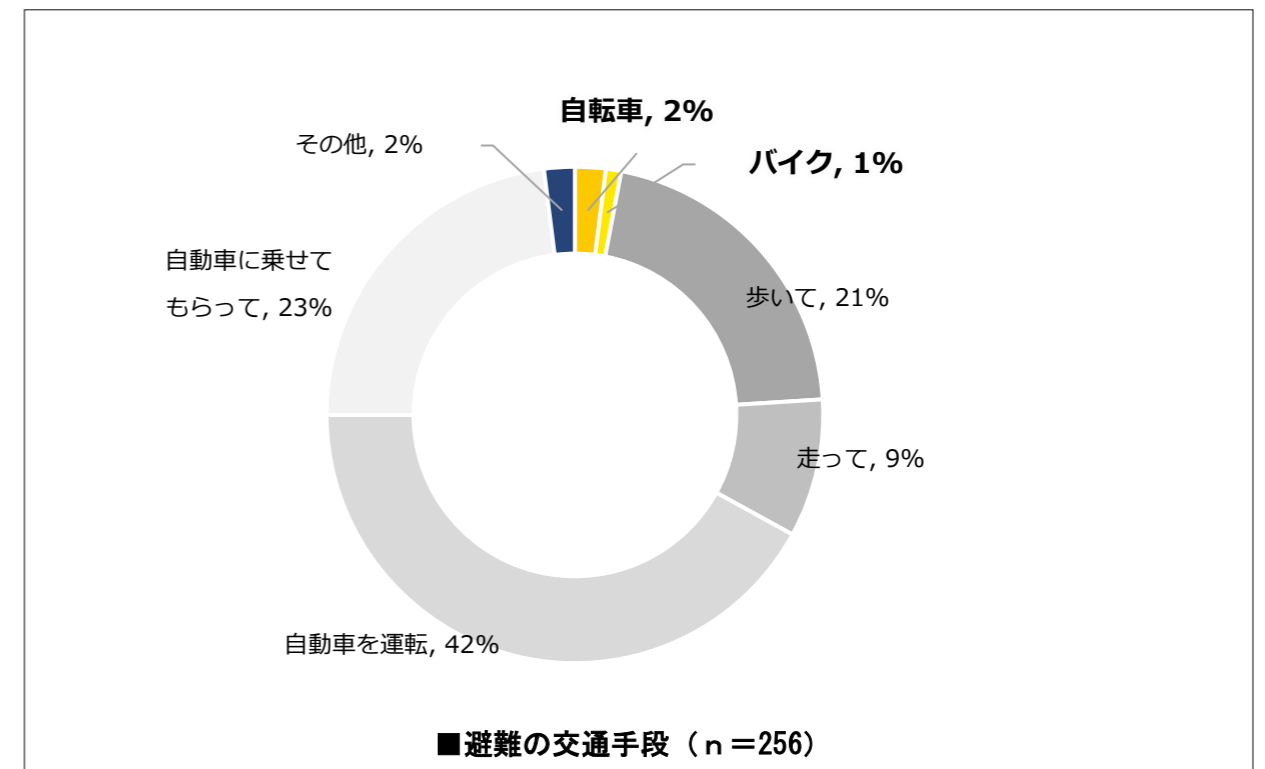
通勤通学時の自転車による移動は、県の分担率は全国平均の 9.8%より低く、7.0%となっている。全国の都道府県別の傾向を見ると、寒冷地や積雪地は分担率が低い傾向となっている。



出典：令和2年国勢調査

(10) 自然災害時の避難行動

- 東日本大震災の際、避難手段は、自動車(同乗含む)が65%と最も多く、自転車利用は2%とごく僅かとなっている。自動車利用の理由としては、「普段の交通手段だから」、「早く安全なところに逃げられる」などが多い。調査結果から渋滞が発生し津波等で犠牲者が増えたと推測されている。

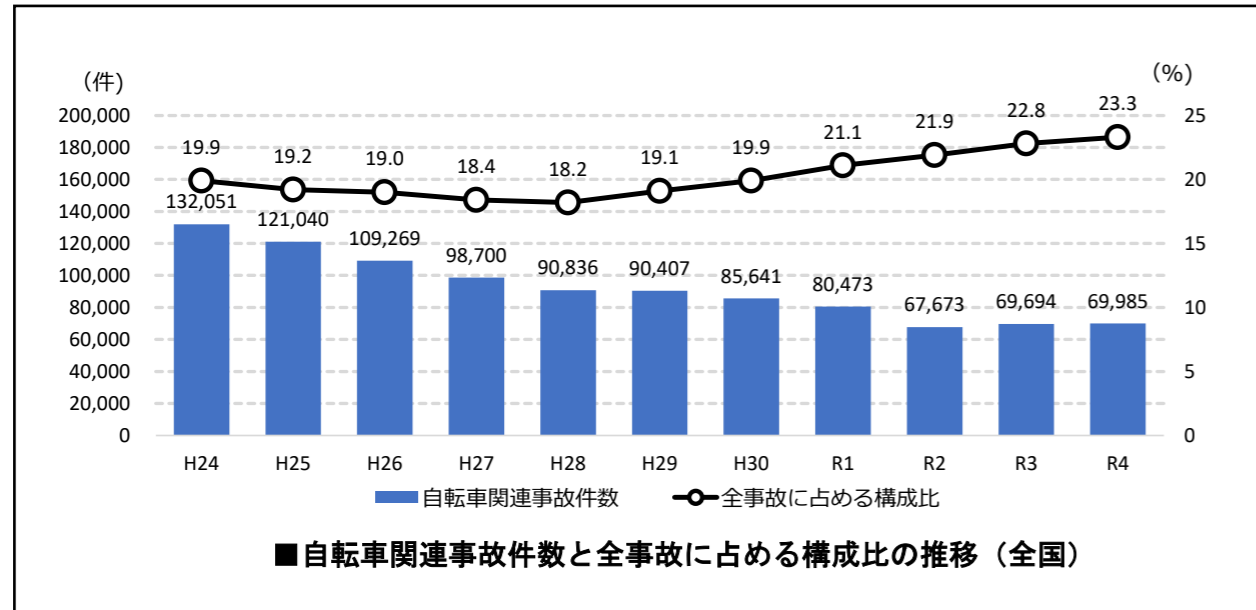


出典：「2011年東北地方太平洋沖地震に対する津波避難行動と交通手段の問題—名取市におけるアンケート調査—（山口大学大学院 村上ひとみら）」地域安全学会（2011）

(11) 自転車事故の状況

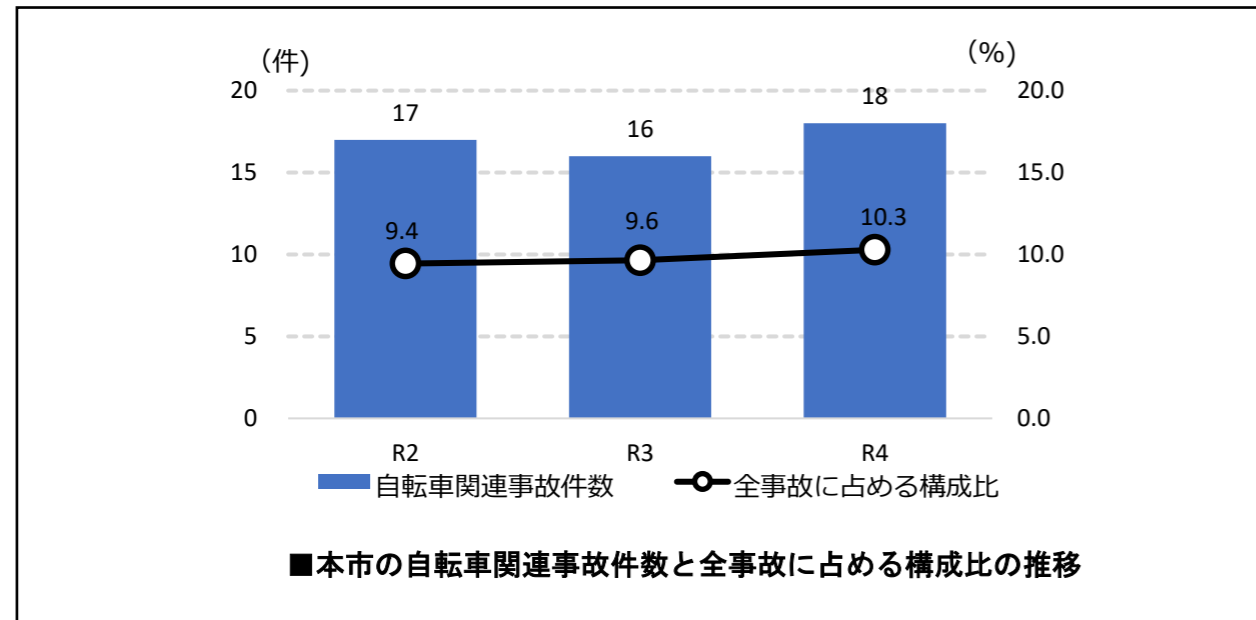
① 自転車事故数

- 全国の自転車関連事故件数は、過去約 10 年間で見ると減少傾向だが、近年はほぼ横ばい傾向にある。一方、全事故に占める自転車関連事故の割合は、平成 28 年以降増加傾向を示している。



出典：警察庁

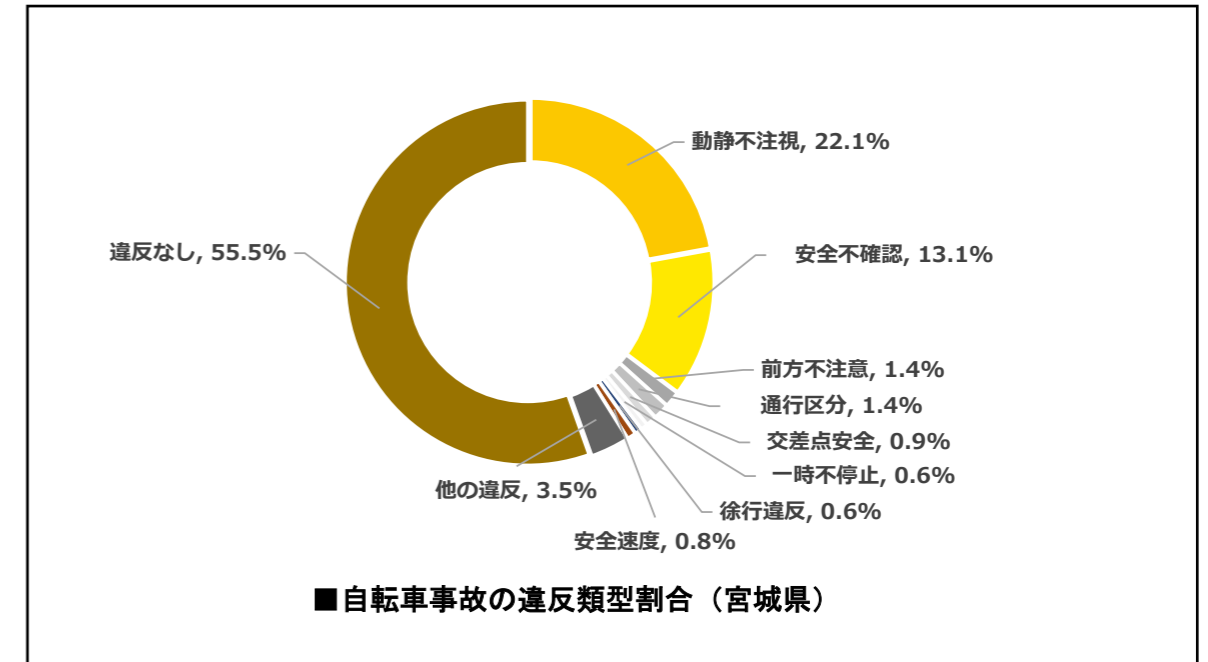
- 本市の近年の自転車関連事故件数は、ほぼ横ばいで推移しており、全事故のうち、自転車事故の占める割合については、微増傾向となっている。



出典：宮城県警察本部

② 自転車事故の違反類型

- 宮城県内の自転車乗車中の事故のうち、半数程度に違反が見られており、動静不注視が 22.1%と最も多く、次いで安全不確認が 13.1%となっている。



出典：令和 4 年度中自転車の交通事故発生状況 (宮城県警察本部)

※(参考) 今後悪質な自転車の交通違反に反則通告制度を導入し、免許保持者と同様の交通違反切符(青切符)を取り入れる検討が始められており、ルール遵守に関する方策が全国的に求められている。

名取市自転車活用に関する現況

③市民アンケート調査

○調査方法

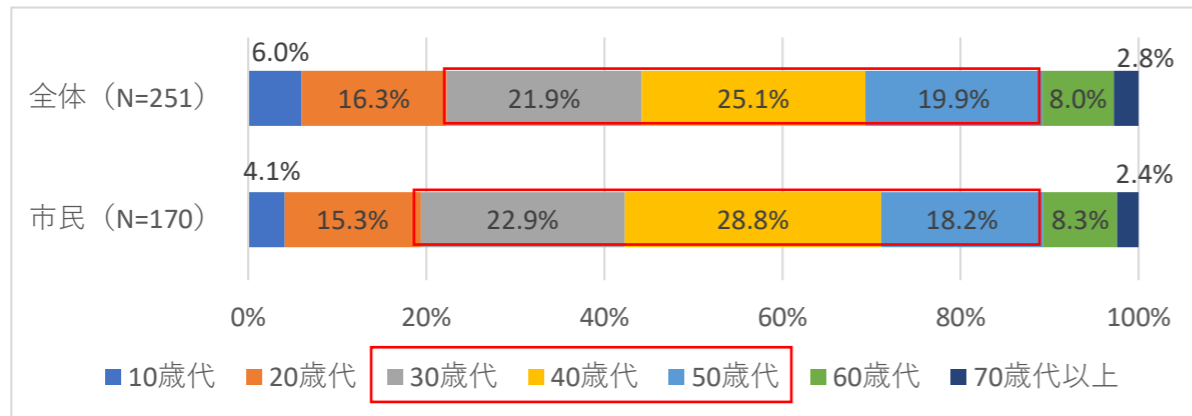
- 市内自転車店舗や公共施設等へのチラシ配布・留め置きを実施。二次元コードを読み取り、WEB上フォームからの回答。
- 調査期間:令和5年7月19日～8月17日

○回答者数

- 全体で251件回答があり、そのうち170件が市内の方からの回答。
- 市外の多くは、仙台市にお住まいの方。

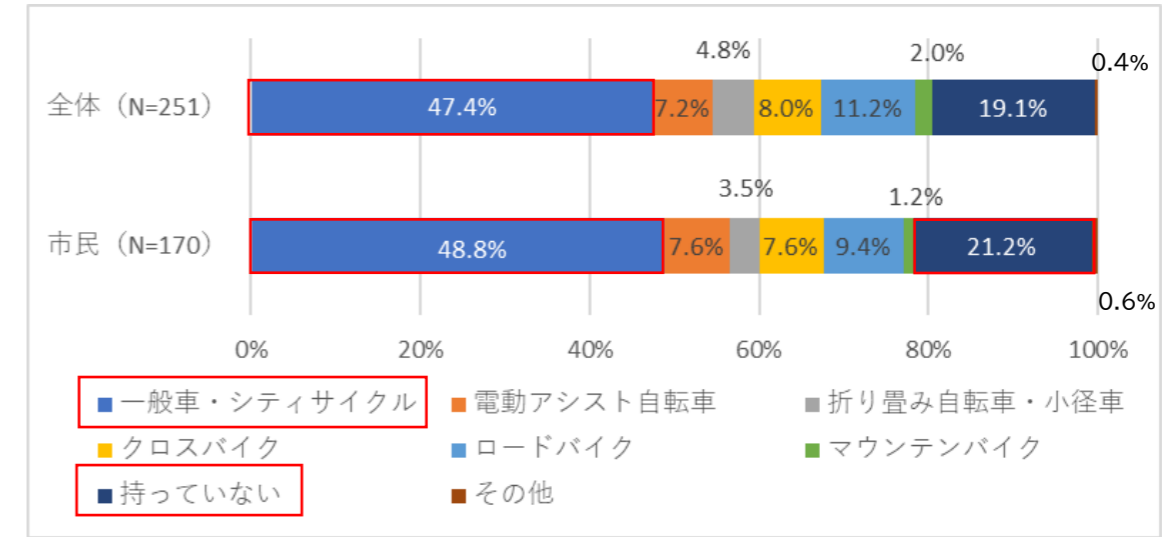
[年齢（1つ選択）]

- 40歳代の回答割合が多く、ついで30歳代、50歳代の回答が多い。

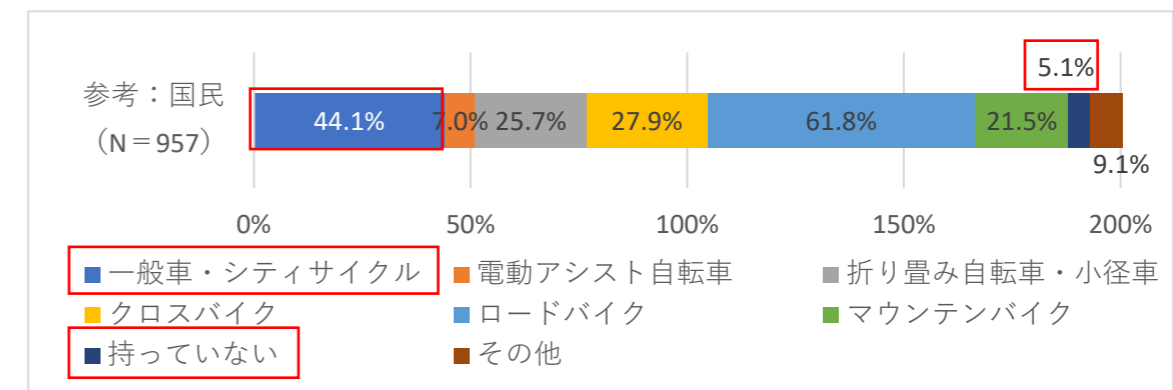


[自転車の所有状況（1つ選択）]

- 回答いただいた市民の約8割が自転車を所有しており、そのうち半数以上は「一般車・シティサイクル」となっている。
- 「持っていない」という市民の方も、国土交通省の調査結果の割合と比べて高い傾向にある。
- 参考の全国調査と比較すると、「一般車・シティサイクル」の所有割合が高い傾向にある。



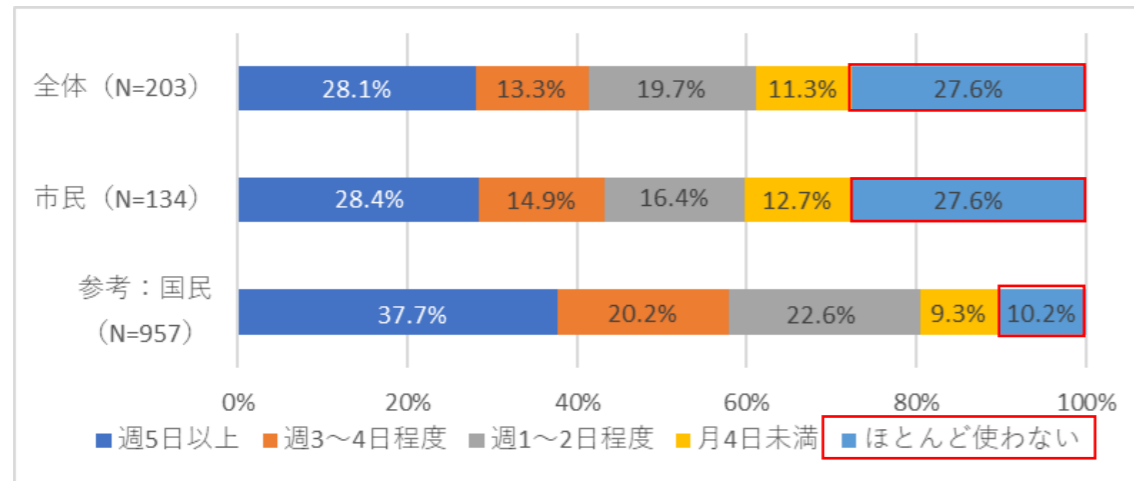
<参考:自転車活用推進計画骨子に対するアンケート調査結果(令和2年度 第4回自転車の活用推進に向けた有識者会議 国土交通省)> (複数選択)



名取市自転車活用に関する現況

[利用頻度（1つ選択）]

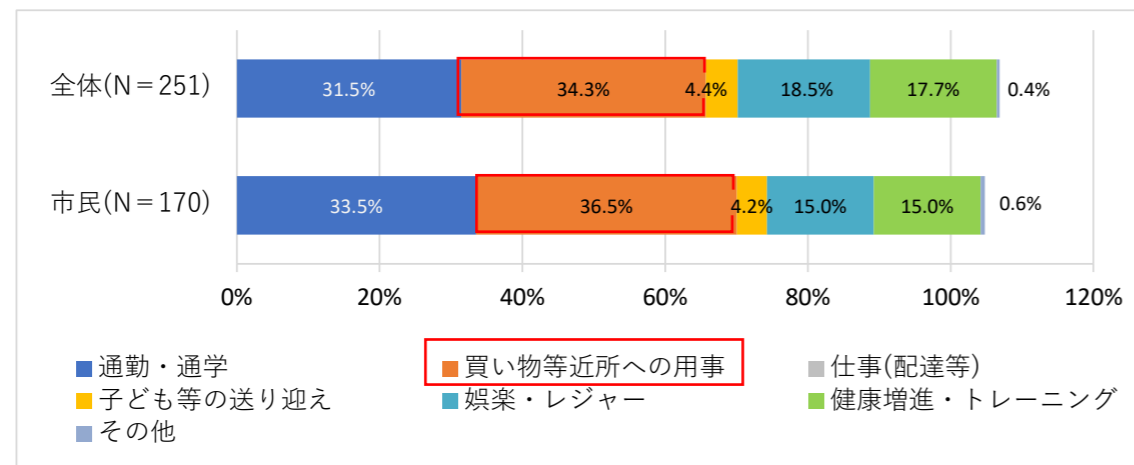
- 自転車を所有している方のうち、3割近い方が「ほとんど使わない」と回答している。
- 令和2年度の国土交通省の調査と比較して、自転車の利用頻度は低い傾向にある。



参考：自転車活用推進計画骨子に対するアンケート調査結果（令和2年度 第4回自転車の活用推進に向けた有識者会議 国土交通省）

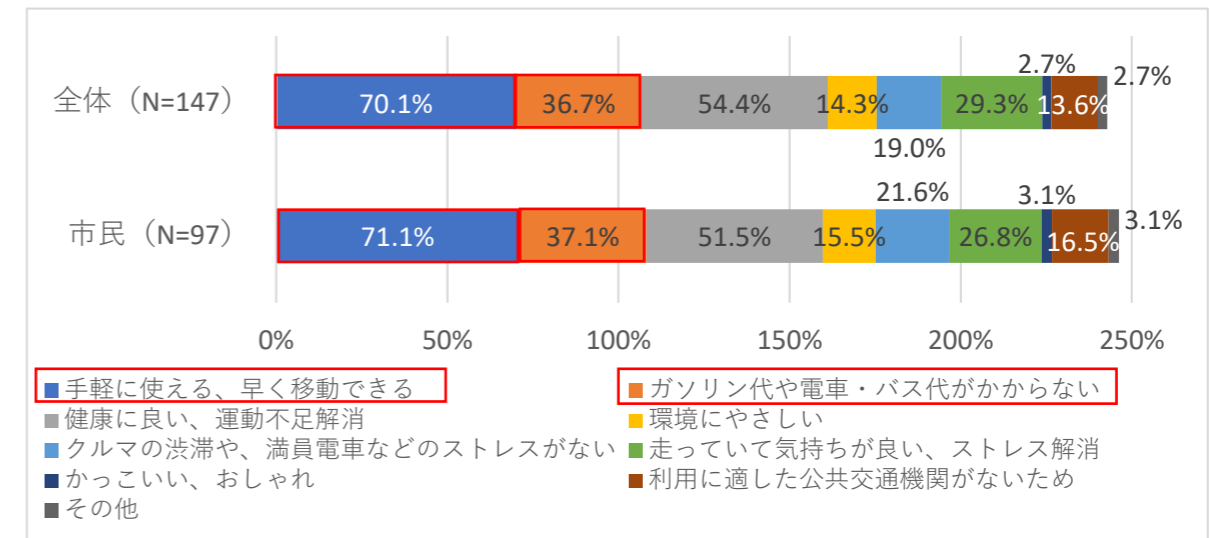
[利用目的（複数選択）]

- 自転車利用の目的としては、「買い物等近所への用事」が最も高く、次いで「通勤・通学」となっており、それらで全体の半数以上を占めている。

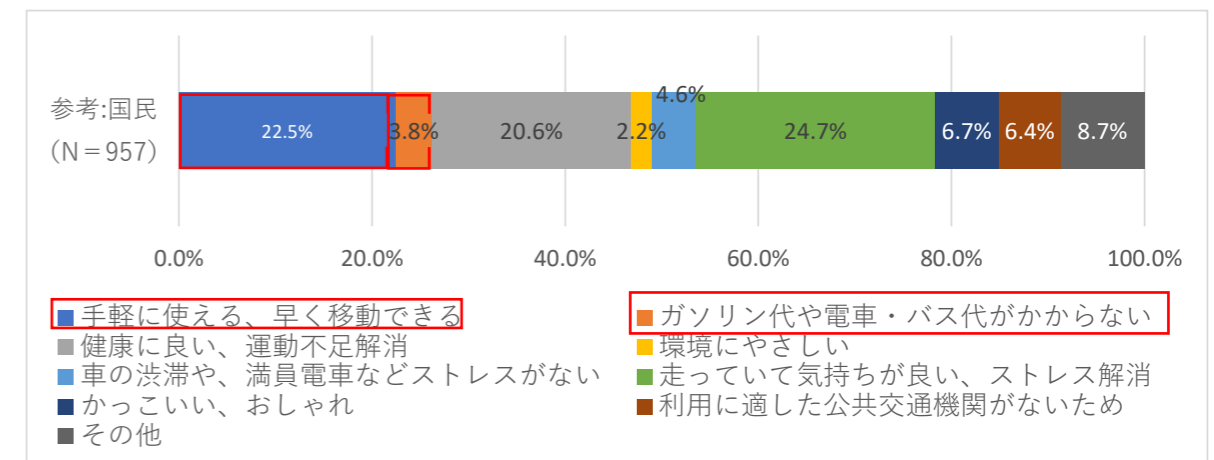


[自転車を利用する理由（3つまで選択）]

- 最も多いのが「手軽に使える、早く移動できる」で、自転車を所有している方の約7割に上る。
- 参考の全国調査を参考とすると、「ガソリン代や電車・バスがかからない」が多い傾向が取れ、自転車を実用的な利用が強いと捉えられる。



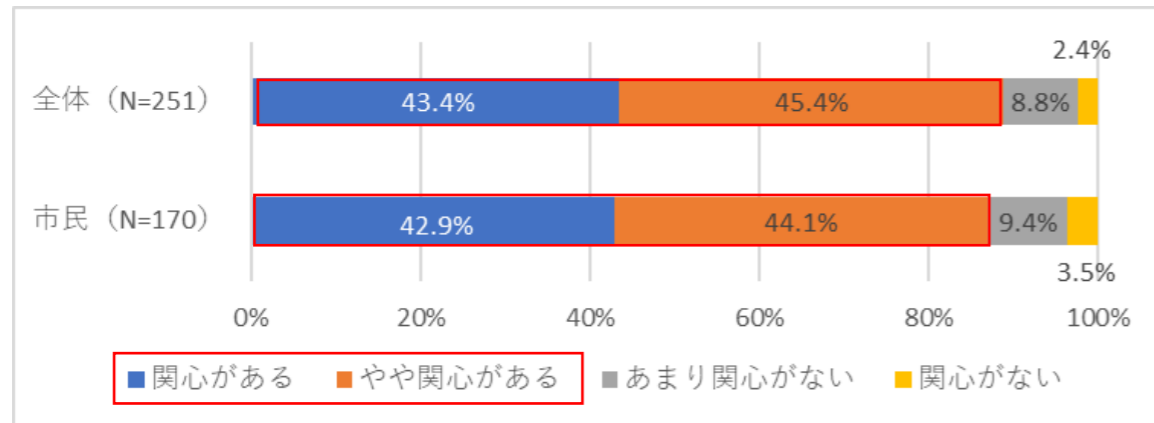
<参考：自転車活用推進計画骨子に対するアンケート調査結果（令和2年度 第4回自転車の活用推進に向けた有識者会議 国土交通省）>



名取市自転車活用に関する現況

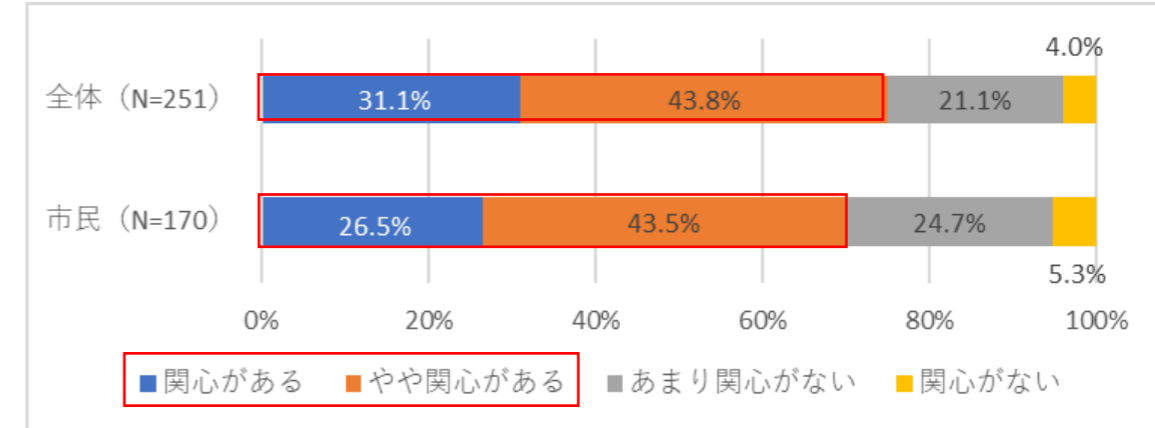
[安全で快適な交通環境の整備への関心（1つ選択）]

- 「関心がある」「やや関心がある」を合わせると、9割近くを占めている。



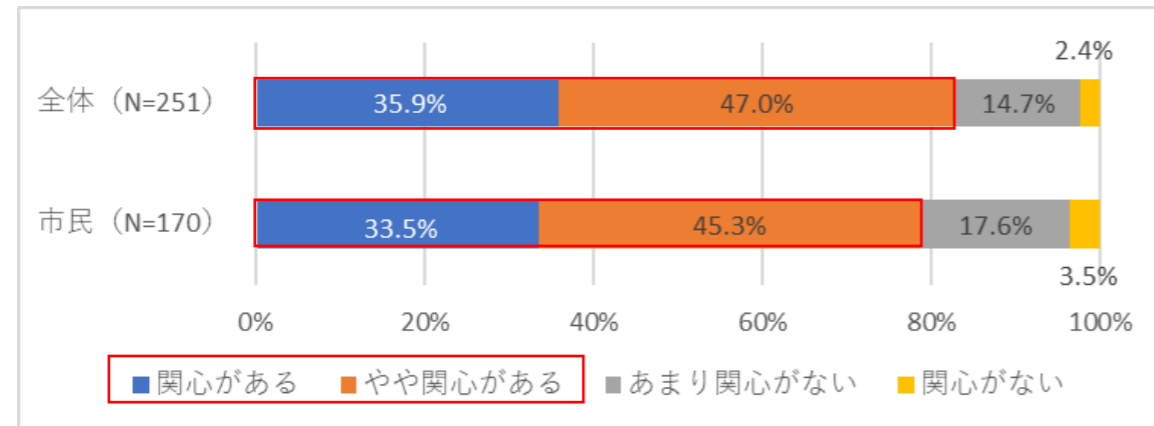
[健康の増進への関心（1つ選択）]

- 「関心がある」「やや関心がある」を合わせると、全体では7割を超えている。



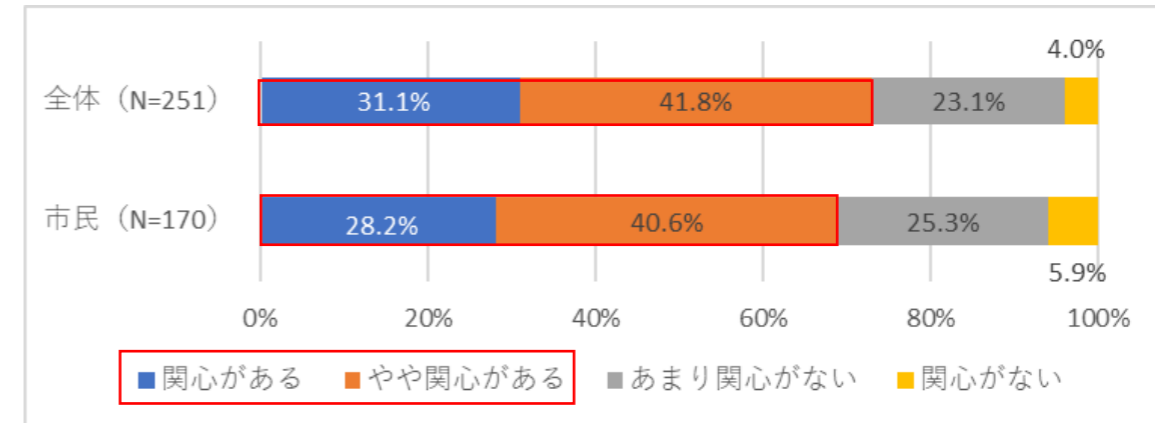
[ゼロカーボンシティの実現に向けた利用促進への関心（1つ選択）]

- 「関心がある」「やや関心がある」を合わせると、8割近くを占めている。



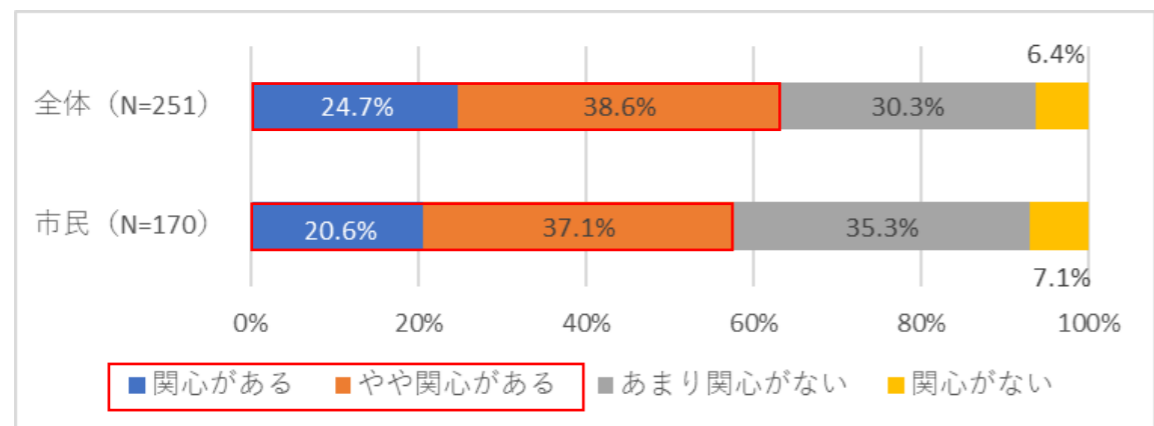
[サイクリストの誘客による賑わいのあるまちづくりへの関心（1つ選択）]

- 「関心がある」「やや関心がある」を合わせると、7割を占めている。



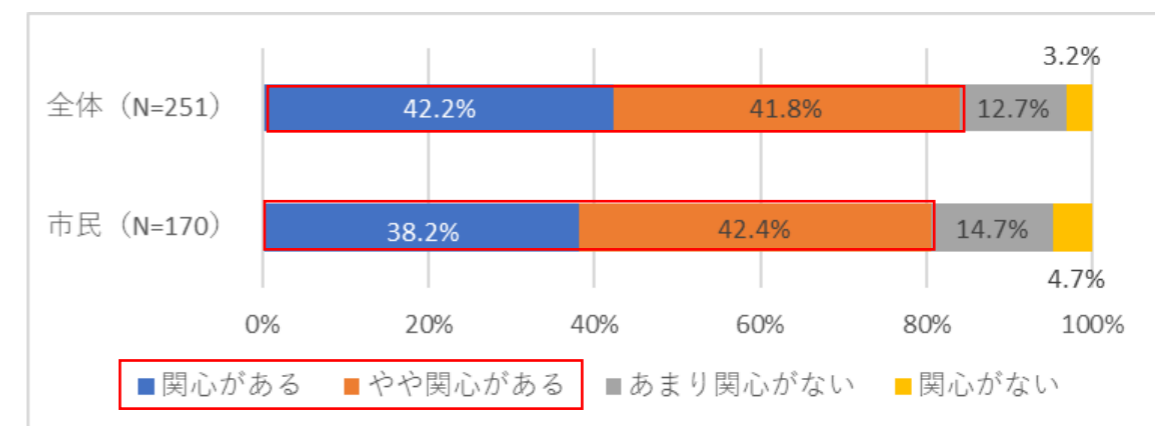
[スポーツの振興への関心（1つ選択）]

- 「関心がある」「やや関心がある」を合わせると、5割以上となるが、他の項目と比べて低い傾向にある



[観光施設の周遊による観光の活性化への関心（1つ選択）]

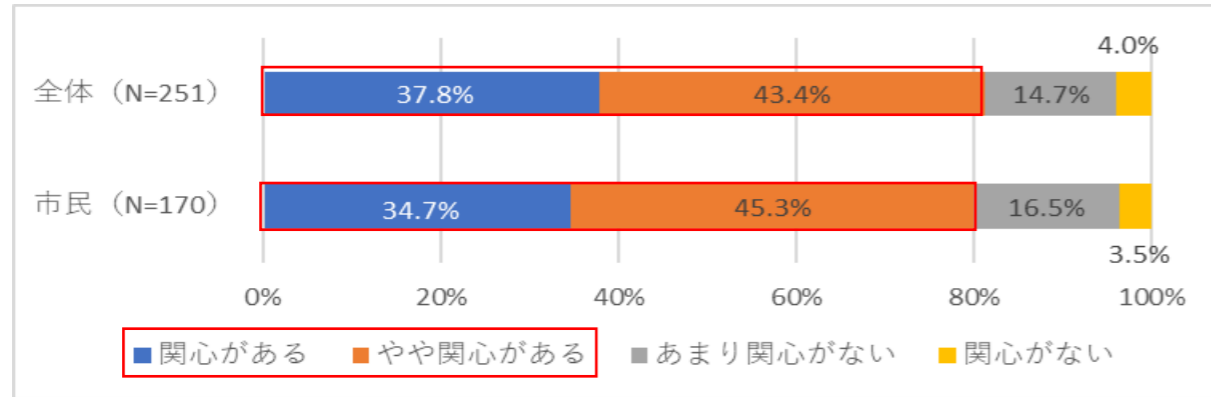
- 「関心がある」「やや関心がある」を合わせると、8割を超えている。



名取市自転車活用に関する現況

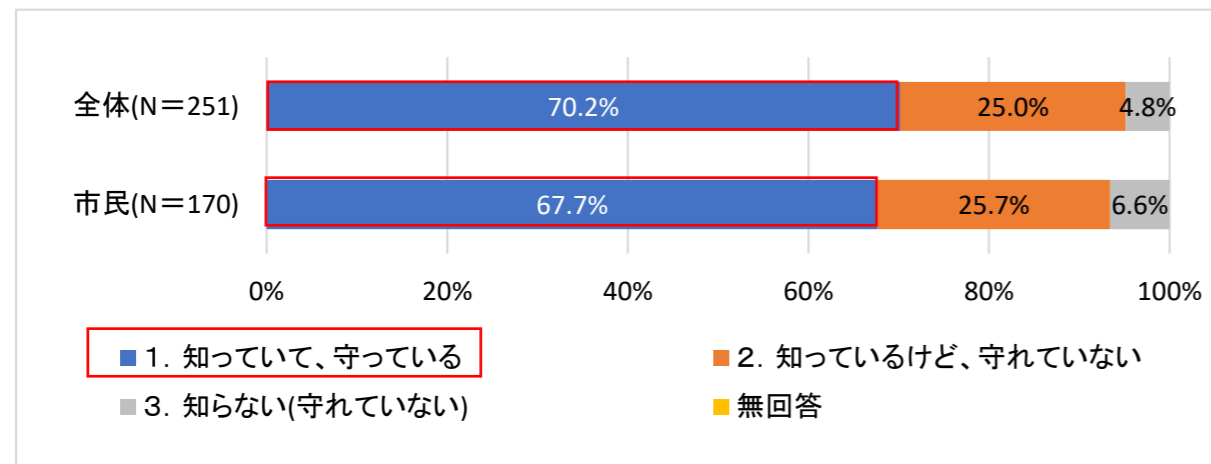
[安全やマナー向上に資する取組への関心 (1つ選択)]

- 「関心がある」「やや関心がある」を合わせると、8割以上を占めている。



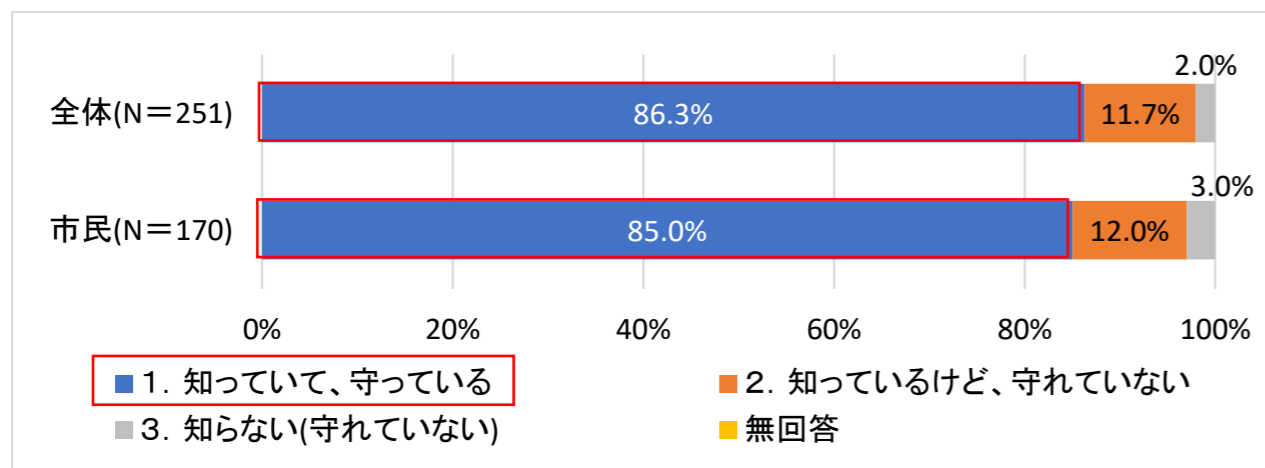
[自転車関連ルールの認知度(①車道が原則、左側を通行、歩道は例外、歩行者を優先) (1つ選択)]

- 「知っている、守っている」が全体の7割を占めている。

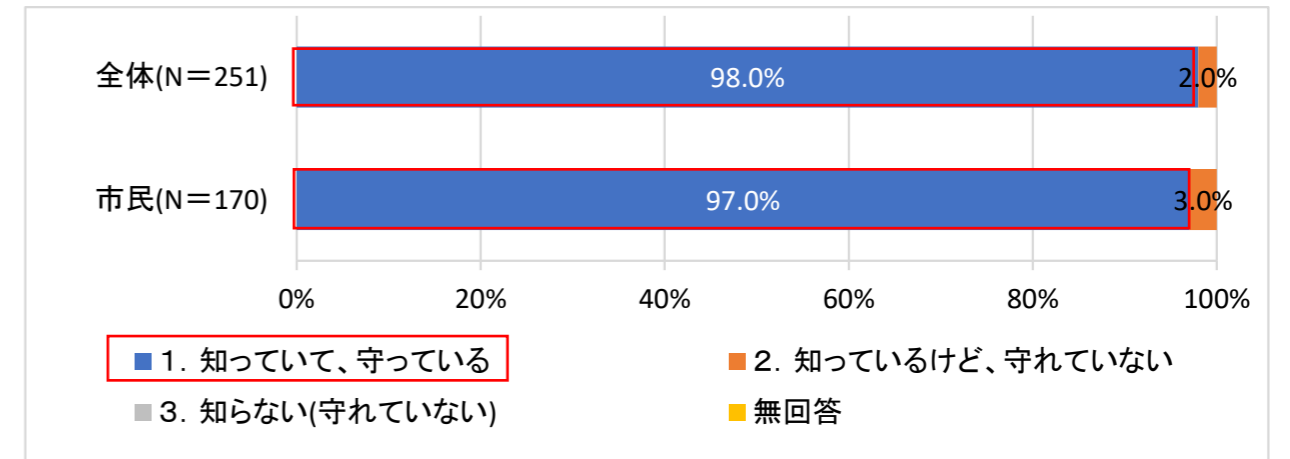


[自転車関連ルールの認知度(② 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認) (1つ選択)]

- 「知っている、守っている」が全体の8割以上を占めている。

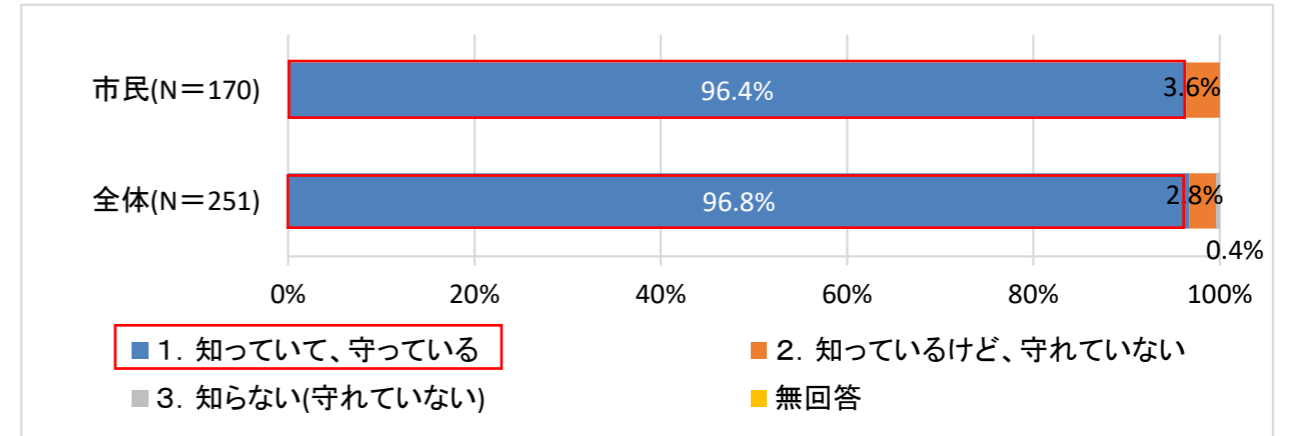


- 「知っている、守っている」が全体の9割以上を占めている。



[自転車関連ルールの認知度(④飲酒運転は禁止) (1つ選択)]

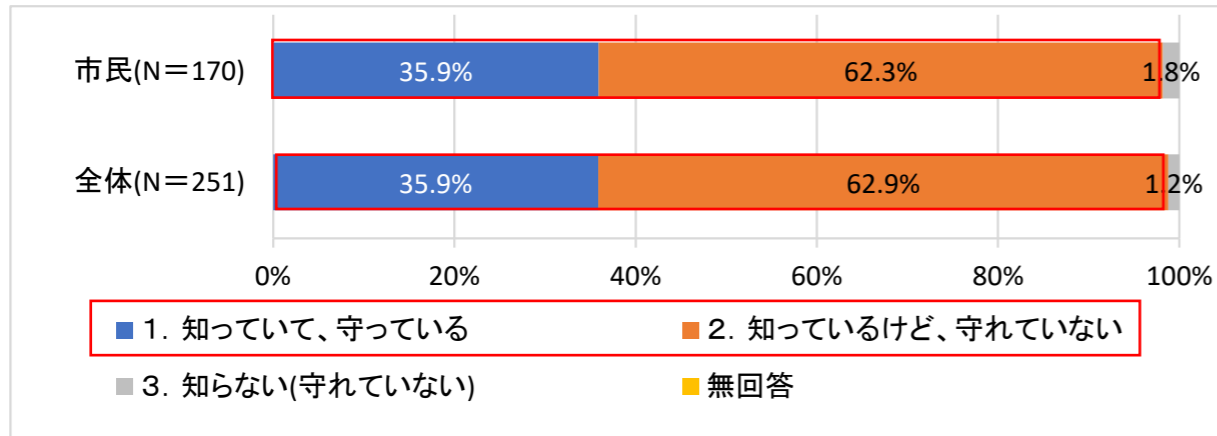
- 「知っている、守っている」が全体の9割以上を占めている。



名取市自転車活用に関する現況

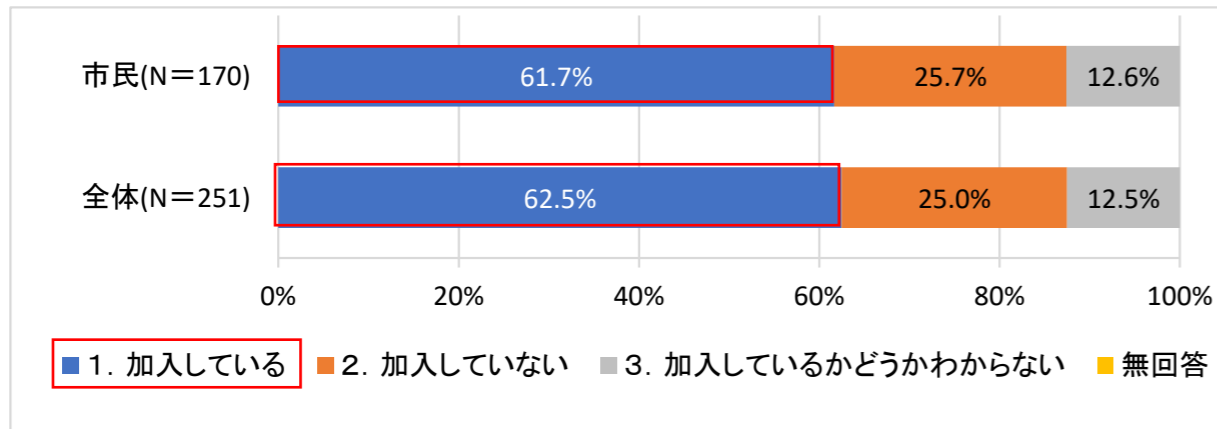
[自転車関連ルールの認知度(⑤ヘルメット着用は努力義務) (1つ選択)]

- 「知っている、守っている」が全体の3割に止まっており、「知っているけど、守れていない」が6割を占めている。



[自転車損害賠償保険等への加入状況 (1つ選択)]

- 「加入している」が全体の6割を占めている。



○調査結果のまとめ

- 自転車の所有状況は全国に比し19%低く、所有者の利用頻度も「ほとんど使わない」が全国と比し20%高い。
- 所有の種類はシティサイクルが半数を占める48.4%だが全国は22%。全国はロードバイク最も多い30.9%であり、クロスバイク等スポーツ型も多い。当市は利用目的も半数以上は通勤・通学買い物。
- 利用理由は「手軽に使える、早く移動できる」が最も多い28.4%だが、この回答は全国では2位の22.5%。自転車が利便性の高いツールである傾向が取れる。
- 全国で最も多い理由「走っていて気持ちがいい」24.7%は、当市は10.7%に止まり、また「ガソリン・バス代がかからない」は全国が2.2%に対し当市は6.2%。
- 「健康に良い、運動不足解消」は市は国と同じ20.6%であり、自転車利用における健康増進の意識は、全国と同等にある。
- ※ 全般的に全国においては、スポーツレクリエーションの利用が進んでいることに比べ、当市は実用性・経済性の傾向が強い。
- 自転車を利用した望まれる施策について「関心がある」「やや関心がある」を抽出した結果
 - 「安全で快適な交通環境の整備」……9割
 - 「ゼロカーボンシティの実現に向けた利用促進」8割
 - 「スポーツ振興」……5割
 - 「健康増進」……7割
 - 「サイクリストの誘客による賑わい」……7割
 - 「観光施設周遊による観光活性化」……8割
 - 「安全やマナー向上」……8割
- ※全般的に関心が高い中、スポーツ振興が低い傾向にある。
- 自転車安全利用5則は、(車道が原則、左側を通行、歩道は例外、歩行者を優先)が「知っている守っていない」が1/4を占め、「ヘルメット着用」が3.5割しか守られていない。
- 保険加入率は6割に止まっている。

名取市自転車活用に関する現況

③サイクルスポーツセンター利用者アンケート調査

○調査方法

- サイクルスポーツセンター内に QR コード付きのチラシを配置。なお平日・休日各 1 日でサイクルスポーツセンター入口付近にて、チラシ及び紙の調査票を配布し、ヒアリング調査(調査票への回答の呼びかけ)を実施。
- 調査期間:令和 5 年 7 月 18 日~8 月 17 日
(うち、令和 5 年 7 月 18 日と令和 5 年 8 月 6 日に施設入口付近にて、調査票の配布を実施)

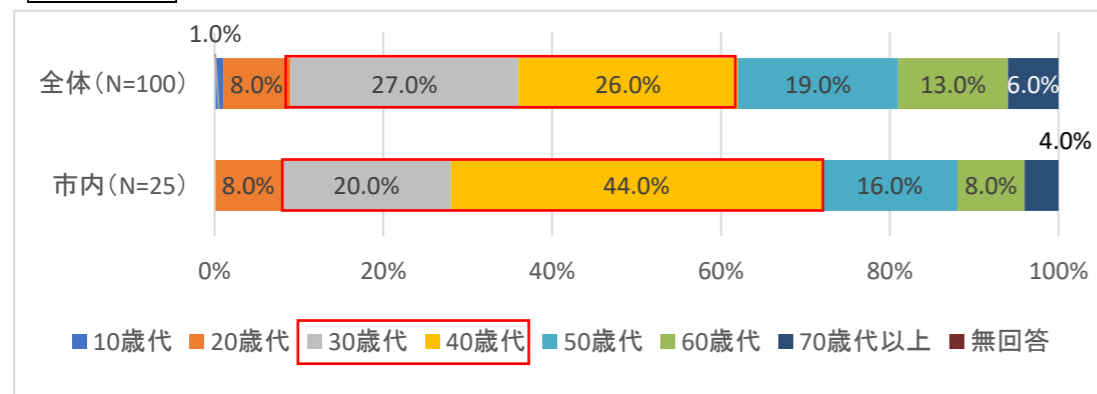
○回答者数

- 全体で 100 件回答

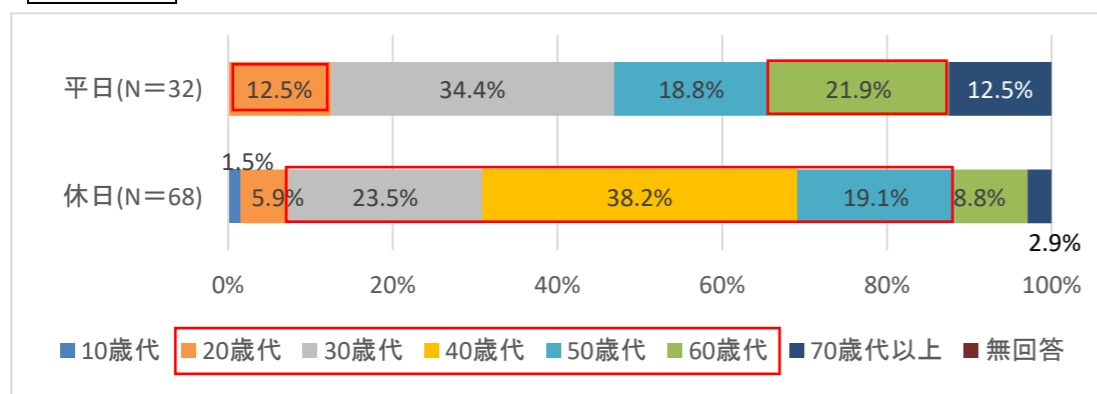
○[年齢 (1つ選択)]

- 30 歳代、40 歳代で半数を占めている。
平日は、20 歳代、60 歳以上の割合が高く、休日は 30~50 歳代の割合が多い傾向にある。

全体・市民

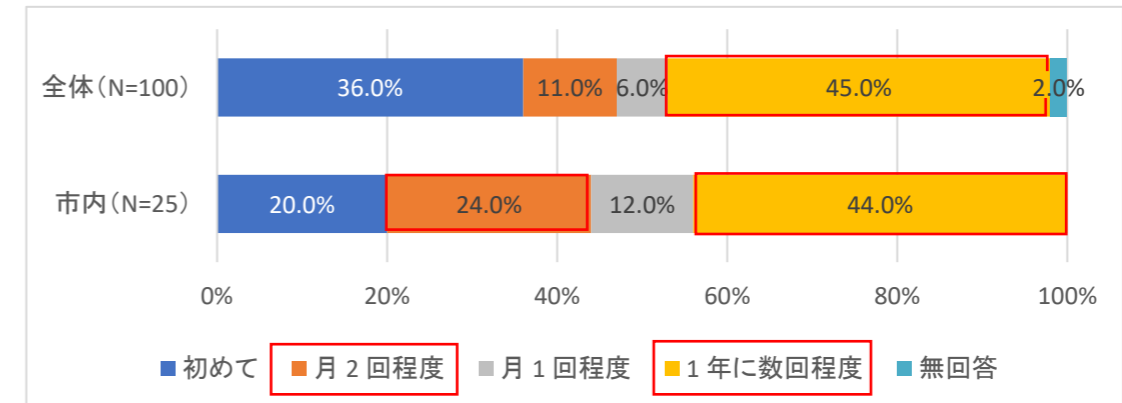


平日・休日



[利用頻度 (1つ選択)]

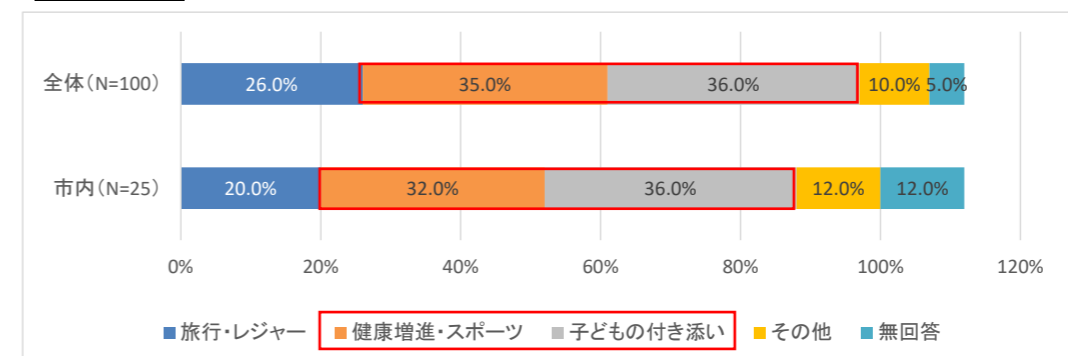
- サイクルスポーツセンターの利用頻度としては、全体では「1年に数回程度」(45.0%)が最も多く、次いで「初めて」(36.0%)となっている。
- 市民も「1年に数回程度」(44.0%)が最も多いが、次いで「月2回程度」(24.0%)となっている。



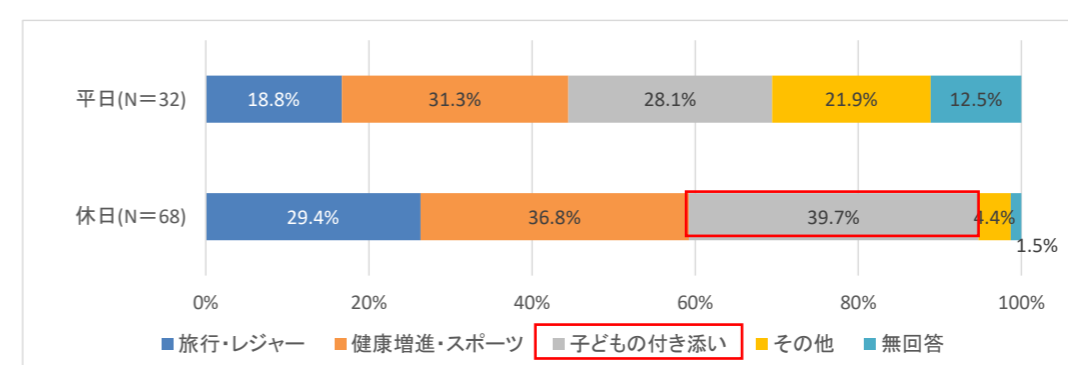
[主な利用目的 (複数選択)]

- サイクルスポーツセンターの利用目的としては、全体では遊具広場など子どもの遊び環境が充実しているため「子どもの付き添い」(36.0%)が最も多く、次いで「健康増進・スポーツ」(35.0%)となっている。
- 市民も全体と同じ傾向にあるが、「その他」の内容は温泉入浴が多いので、「健康増進・スポーツ」の割合は、実数よりも少し多い。
- 休日は、「子どもの付き添い」(39.7%)が最も多い割合を占めている。

全体・市内



平日・休日

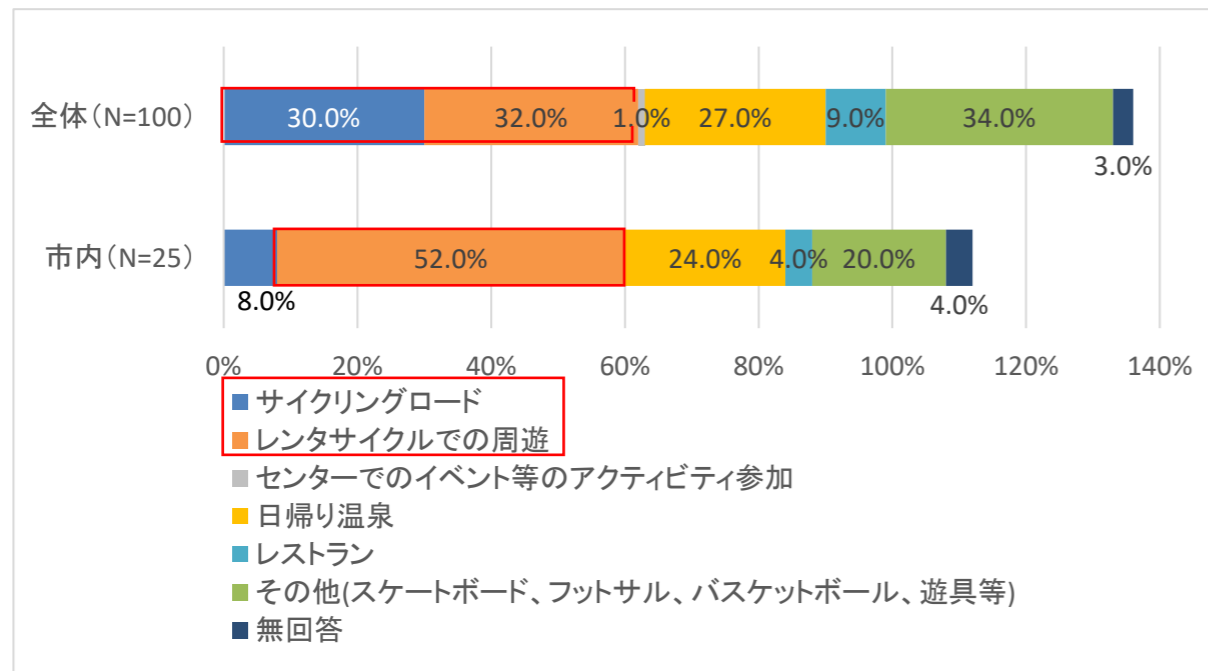


名取市自転車活用に関する現況

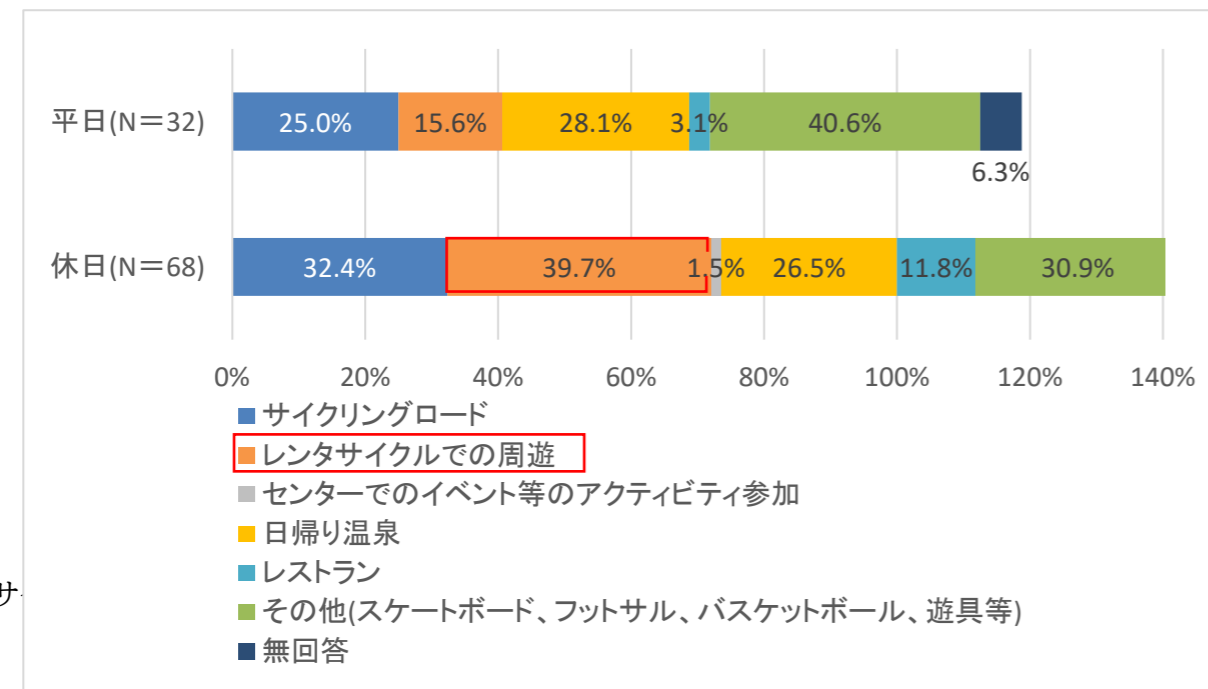
[主な利用内容 (複数選択)]

- 利用内容としては、全体では「レンタサイクルでの周遊」(32.0%)が最も多く、次いで「サイクリングロード」(30.0%)となっている。
- 市民については、「レンタサイクルでの周遊」(52.0%)が半数以上の利用内容となっており、サイクリングロードまで利用する方は比較的少ない。休日の「レンタサイクルでの周遊」も高い傾向にある。

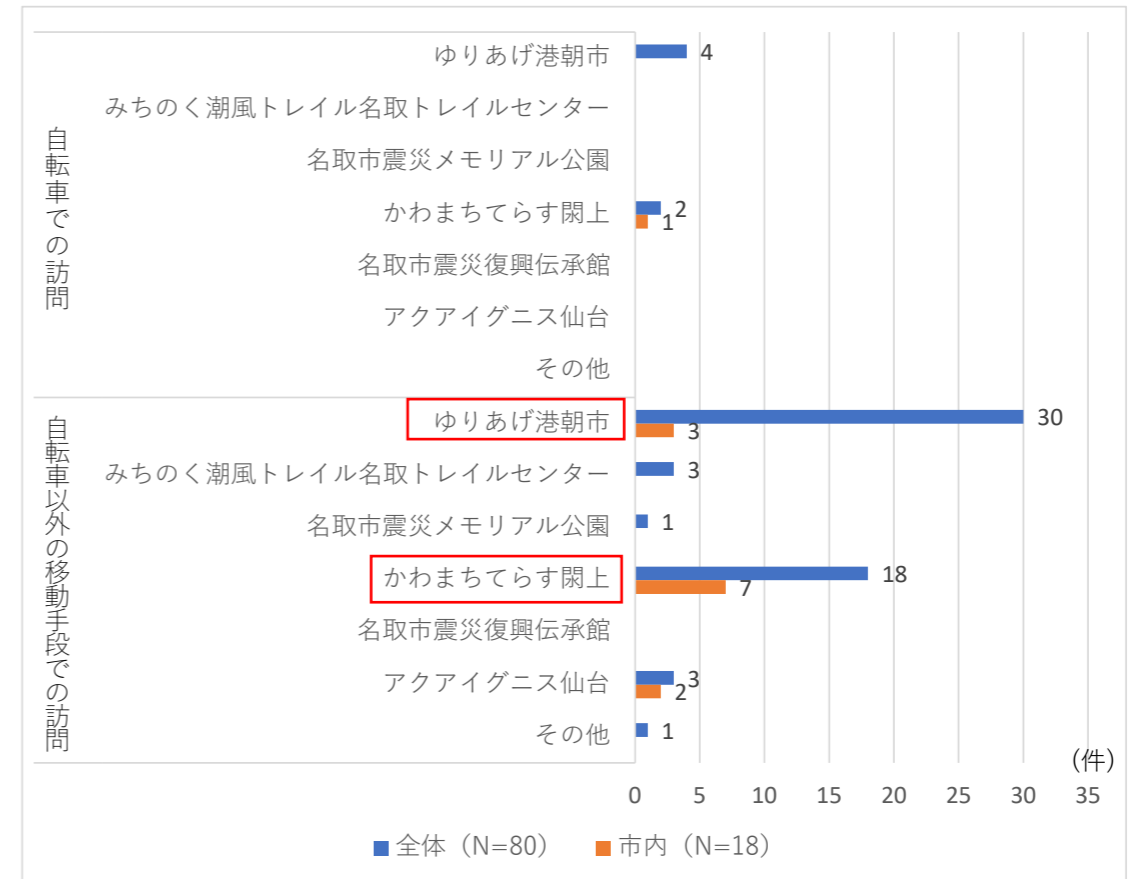
全体・市内



平日・休日



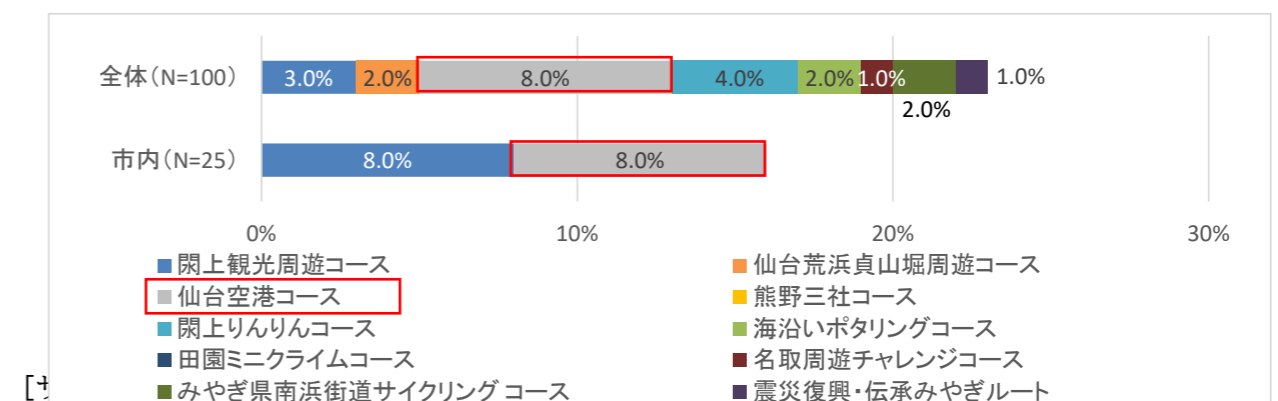
- センターに併せて訪れた施設や場所としては、自転車での回遊より自動車に依る場合が多い傾向にある。
- 自転車以外の移動手段での訪問としては、全体では、「ゆりあげ港朝市」、「かわまちテラス閑上」の順に多い。一方、市民では、「かわまちてらす閑上」、「ゆりあげ港朝市」の順に多く、その他は、「アクアイグニス仙台」しか見られなかった。



※無回答を除く

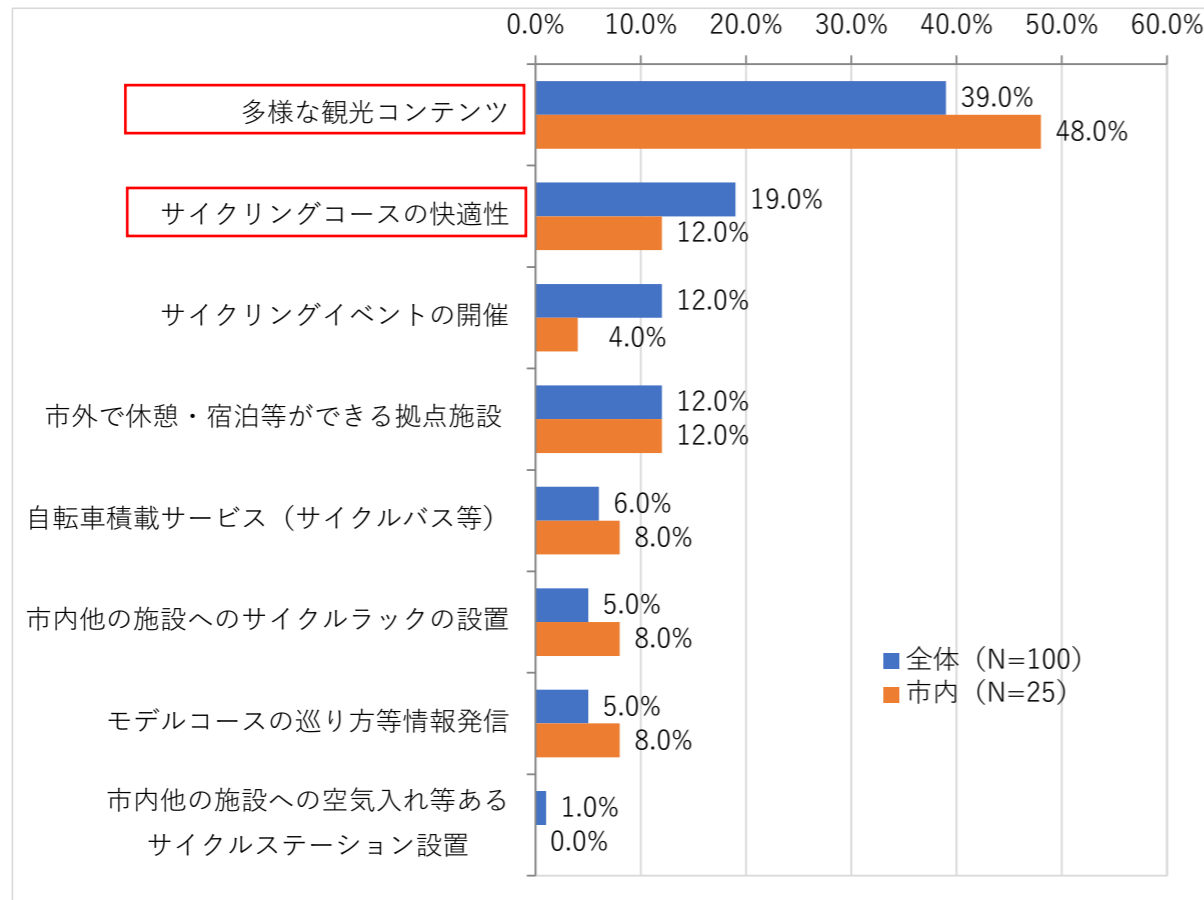
[走行した(ことがある)サイクリングコース]

- 走行したことがあるサイクリングコースとしては、「仙台空港コース」が最も多かった。



名取市自転車活用に関する現況

- 全体、市内ともに「多様な観光コンテンツ」(それぞれ 39.0%、48.0%)と「サイクリングコースの快適性」(それぞれ 19.0%、12.0%)が多かった。



[自由意見]

- 走行後に気軽に立ち寄れる飲食店が欲しい
- 施設に自転車販売店を併設してほしい
- 参加しやすいサイクルフェスタやロードレースを開催
- レンタサイクルの乗り捨てができるようにする
- ロードバイク以外のバイクの為のセクションの充実
- 施設の情報発信の強化
- 自転車で巡るスタンプラリー企画等

○調査結果のまとめ

- 回答者の4分の3は、市外に居住地を持つ方であるため、サイクルスポーツセンターが市外からの来訪者を呼び込み、交流人口拡大に寄与していることがうかがえる。
また利用頻度についても、市内では、月1から2回が3.6割、年複数回訪れる人も4割を超え利用人数が増える中、市民の利用が定着しつつある。
- 利用目的について「子どもの付き添い」が多く、次いでほぼ同様の割合で「健康増進・スポーツ」となっており、遊具広場などの充実が集客に大きく貢献しているものと捉えられる。
- 利用内容について、全体では、サイクリングロード、サイクル周遊、温泉、その他(スケードボード、フットサルや遊具等)の主たる施設等がほぼ同様の割合で使用されているが、市内利用者は周遊の割合が高く、休日は一層その傾向が強くなる。一方、他の施設の訪問は自動車による場合が多く、自転車による施設の回遊性は少ない傾向が取れる。
- サイクリングコースの選択については仙台空港コースが最も多く、または閑上の周辺に留まり、市域西側への回遊性は目立っては見られない。
- サイクルスポーツセンターを拠点にサイクリングをより楽しむための施策としても、サイクリングコースの快適性や多様な観光コンテンツへの意見が多い傾向にある。

名取市自転車活用に関する現況

④名取市民のスポーツ活動に関するアンケート調査

○調査方法

- 無作為抽出による 18 歳以上の市民 2,000 人を対象に、郵送による配布・郵送・インターネット (google フォーム) による回答。
- 調査期間: 令和5年 6 月 21 日～7月7日

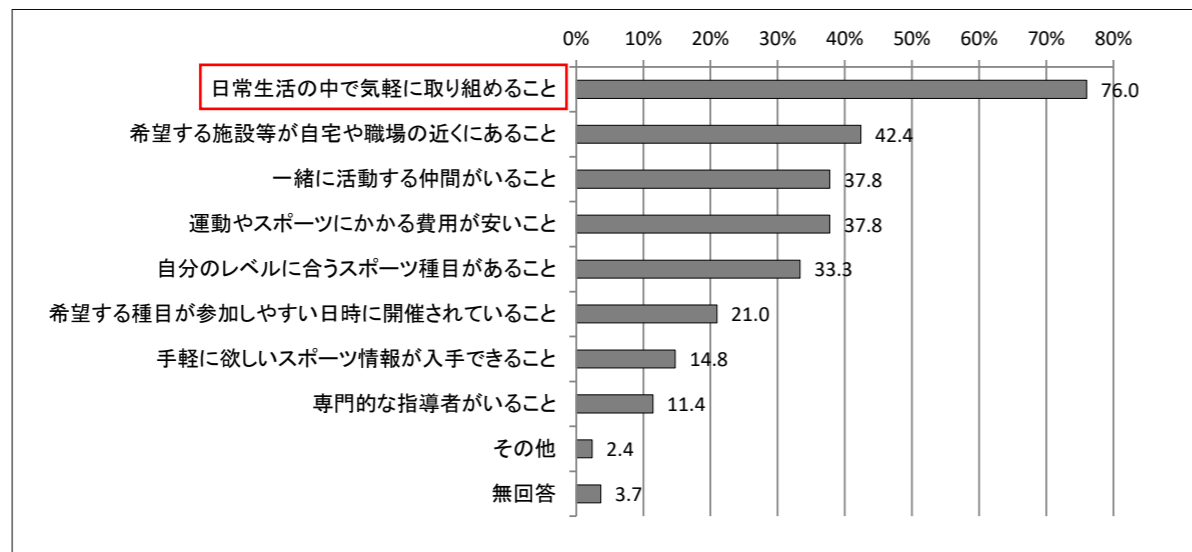
○回答者数

- 有効回収数: 630 票 (紙媒体 447 票 WEB 媒体 183 票)
- 有効回収率: 29.2%

○調査結果

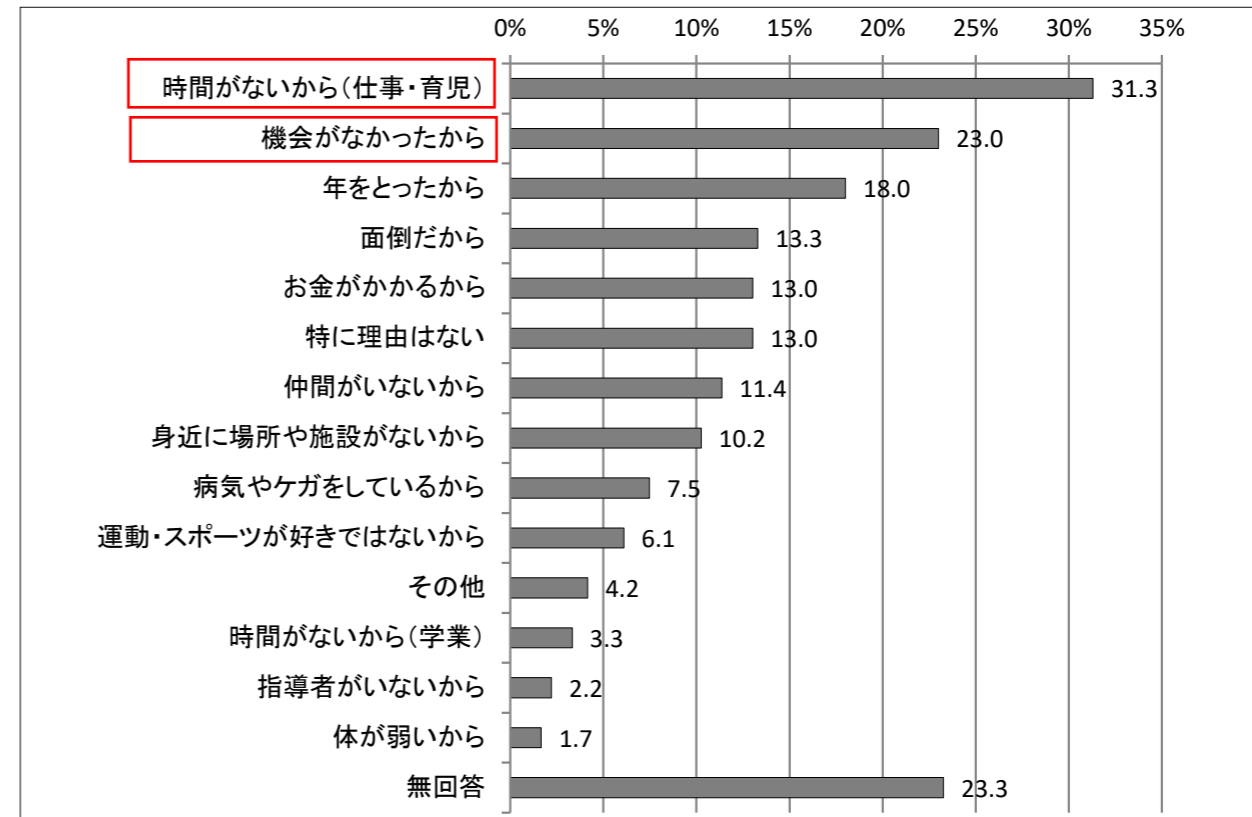
[運動やスポーツを習慣化するために必要なこと]

- 運動やスポーツを習慣化するために必要なことについては、「日常生活の中で気軽に取り組めること」が8割近くを占めており、気軽に取り組めることが重要。



[運動・スポーツをしなかった理由]

- この1年間で運動・スポーツをしなかった方の理由としては、「時間がないから(仕事・育児)」「機会がなかった」が多く、時間や機会を十分に得ることができないことが背景にあると考えられる。



[1年間で行った運動・スポーツ]

- 最も多いのが「ウォーキング、散歩」で、「サイクリング、モータースポーツ」は全体の 3.6%にとどまっており、市民がサイクリングに親しむ機会は少ない傾向にある。

